

第六章 人権への配慮について

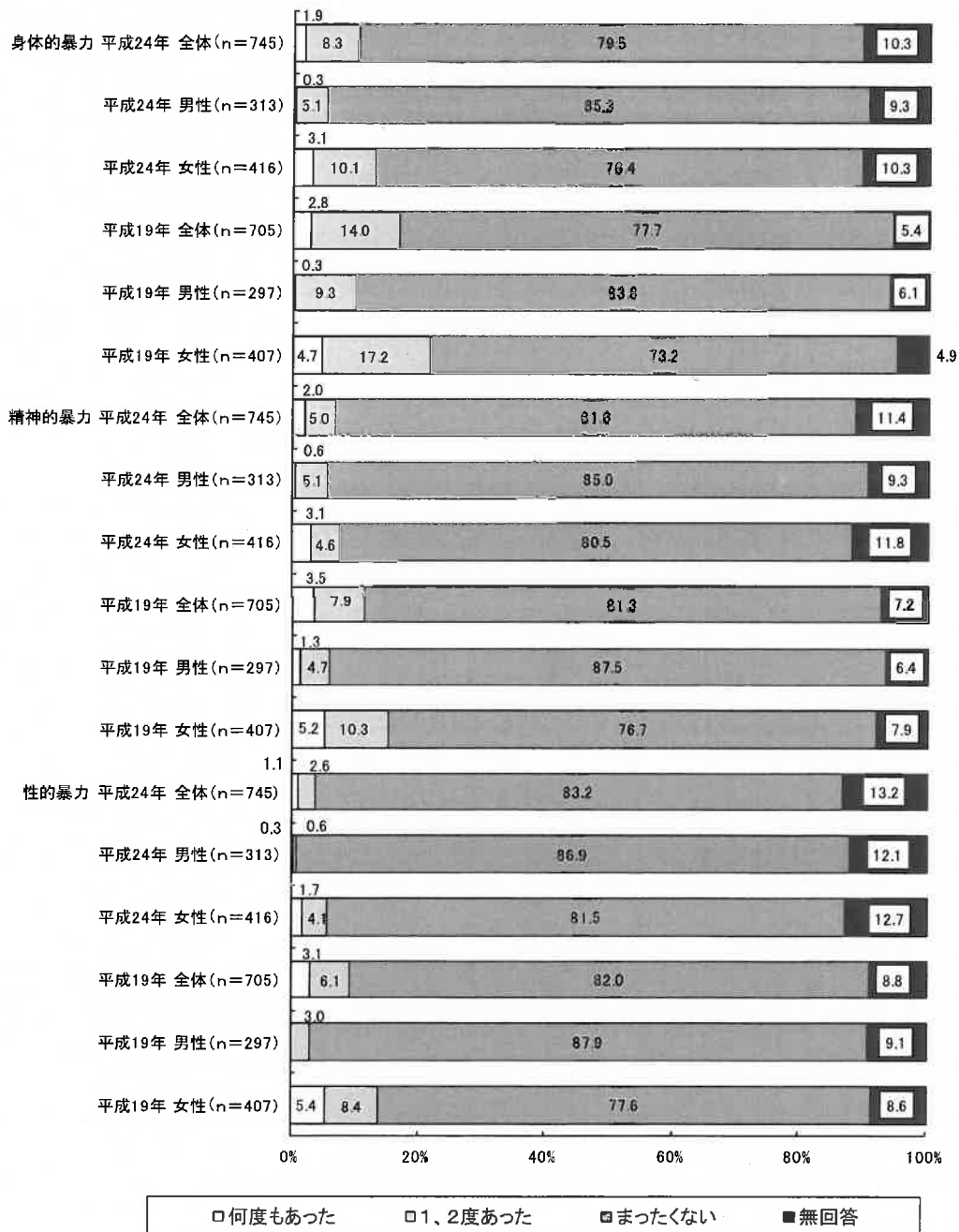
1. ドメスティック・バイオレンス（DV）の経験【問14、問14-1】

(1) 全体

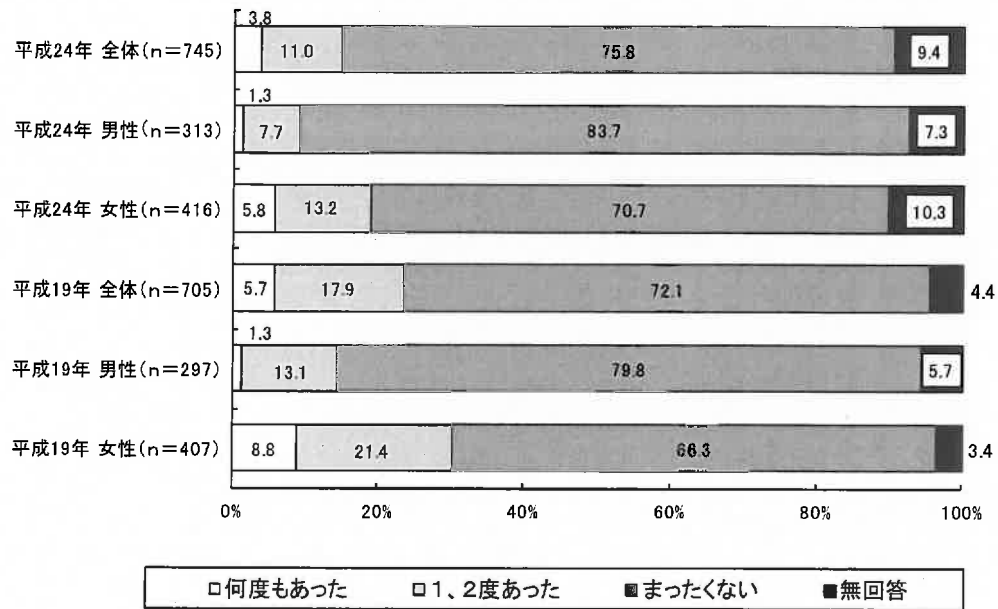
基本属性で、配偶者について「配偶者あり」「配偶者と離別」「配偶者と死別」と回答した人に、配偶者からDVを受けた経験を尋ねたところ、『あった』（「1、2度あった」「何度もあった」の合計）は、身体的暴力では10.2%、精神的暴力では7.0%、性的暴力では3.7%となっている。

性別で見ると、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力を受けた経験はいずれも女性の割合が高い。

〔図表 6-1-1〕 暴力を受けた経験（性別・前回調査との比較）〈SA〉



[図表 6-1-2] いずれかの暴力を1つでも受けた経験（性別・前回調査との比較）《SA》



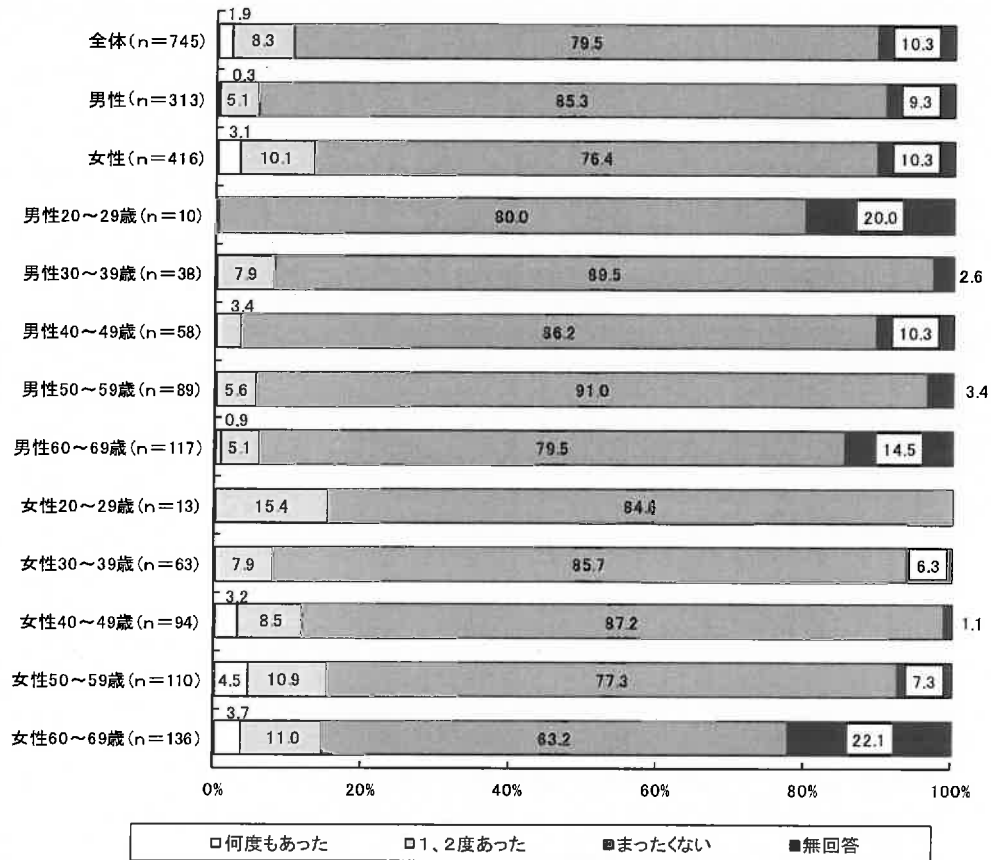
[図表 6-1-3] 過去5年以内に暴力を受けた経験（性別）《MA》

		この1年にあった	この2～5年にあった	5年以内にはなかった	無回答
身体的暴力	全体 (n=76)	7件 (9.1%)	12件 (15.6%)	50件 (64.9%)	8件 (10.4%)
	男性 (n=17)	2件 (11.8%)	3件 (17.6%)	10件 (58.8%)	2件 (11.8%)
	女性 (n=55)	5件 (8.9%)	8件 (14.3%)	37件 (66.1%)	6件 (10.7%)
精神的暴力	全体 (n=52)	12件 (23.1%)	10件 (19.2%)	24件 (46.2%)	6件 (11.5%)
	男性 (n=18)	7件 (38.9%)	3件 (16.7%)	7件 (38.9%)	1件 (5.6%)
	女性 (n=32)	5件 (15.6%)	7件 (21.9%)	15件 (46.9%)	5件 (15.6%)
性的暴力	全体 (n=27)	5件 (18.5%)	6件 (22.2%)	14件 (51.9%)	2件 (7.4%)
	男性 (n=3)	0件 (0%)	0件 (0%)	3件 (100%)	0件 (0%)
	女性 (n=24)	5件 (20.8%)	6件 (25.0%)	11件 (45.8%)	2件 (8.3%)

(2) 身体的暴力（性別・年齢別）

身体的暴力を受けた経験について、性別で見ると『あった』は、男性で5.4%、女性で13.2%となっている。

[図表 6-1-4] 身体的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《SA》



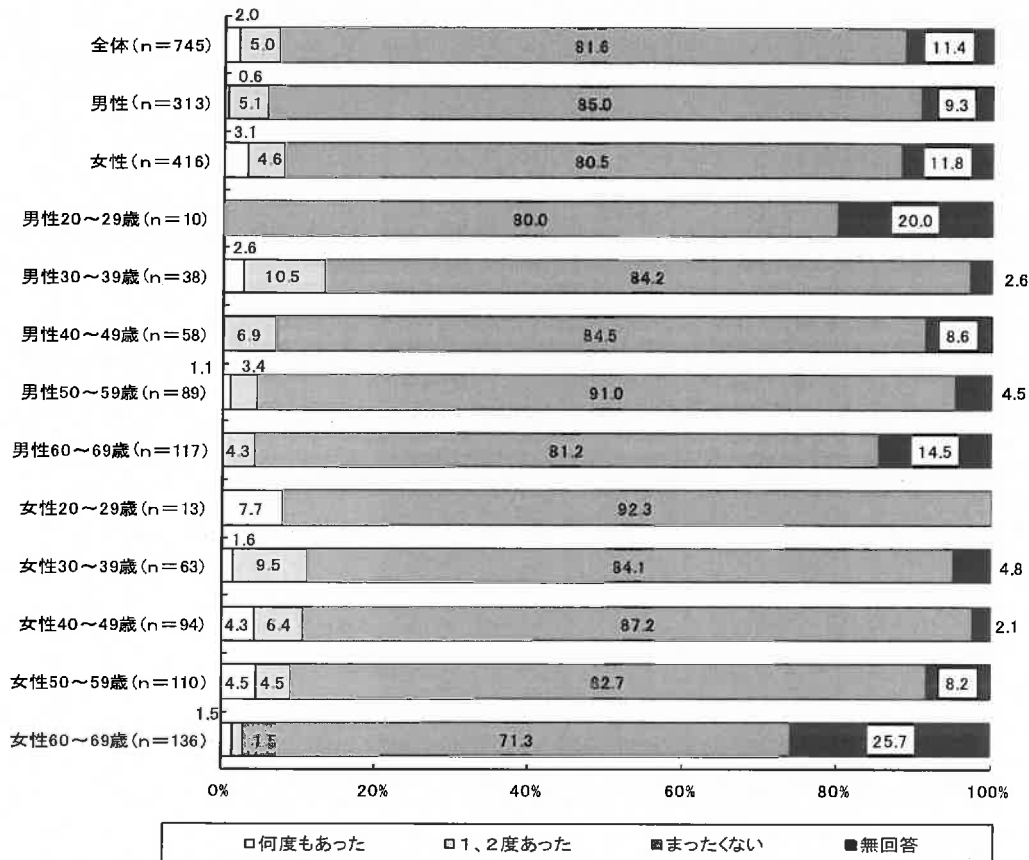
[図表 6-1-5] 過去5年以内に身体的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《MA》

	この1年にあった	この2~5年にあった	5年以内にはなかった	無回答
男性 20~29歳 (n=0)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
男性 30~39歳 (n=3)	1件 (33.3%)	0件 (0%)	2件 (66.7%)	0件 (0%)
男性 40~49歳 (n=2)	0件 (0%)	0件 (0%)	1件 (50.0%)	1件 (50.0%)
男性 50~59歳 (n=5)	0件 (0%)	1件 (20.0%)	3件 (60.0%)	1件 (20.0%)
男性 60~69歳 (n=7)	1件 (14.3%)	2件 (28.6%)	4件 (57.1%)	0件 (0%)
女性 20~29歳 (n=2)	1件 (50.0%)	1件 (50.0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
女性 30~39歳 (n=5)	0件 (0%)	1件 (20.0%)	3件 (60.0%)	1件 (20.0%)
女性 40~49歳 (n=11)	2件 (18.2%)	2件 (18.2%)	4件 (36.4%)	3件 (27.3%)
女性 50~59歳 (n=17)	2件 (11.1%)	1件 (5.6%)	14件 (77.8%)	1件 (5.6%)
女性 60~69歳 (n=20)	0件 (0%)	3件 (15.0%)	16件 (80.0%)	1件 (5.0%)

(3) 精神的暴力 (性別・年齢別)

精神的暴力を受けた経験について、性別で見ると、『あった』は男性で5.7%、女性で7.7%となっている。

[図表 6-1-6] 精神的暴力を受けた経験 (性別・年齢別) <<SA>>



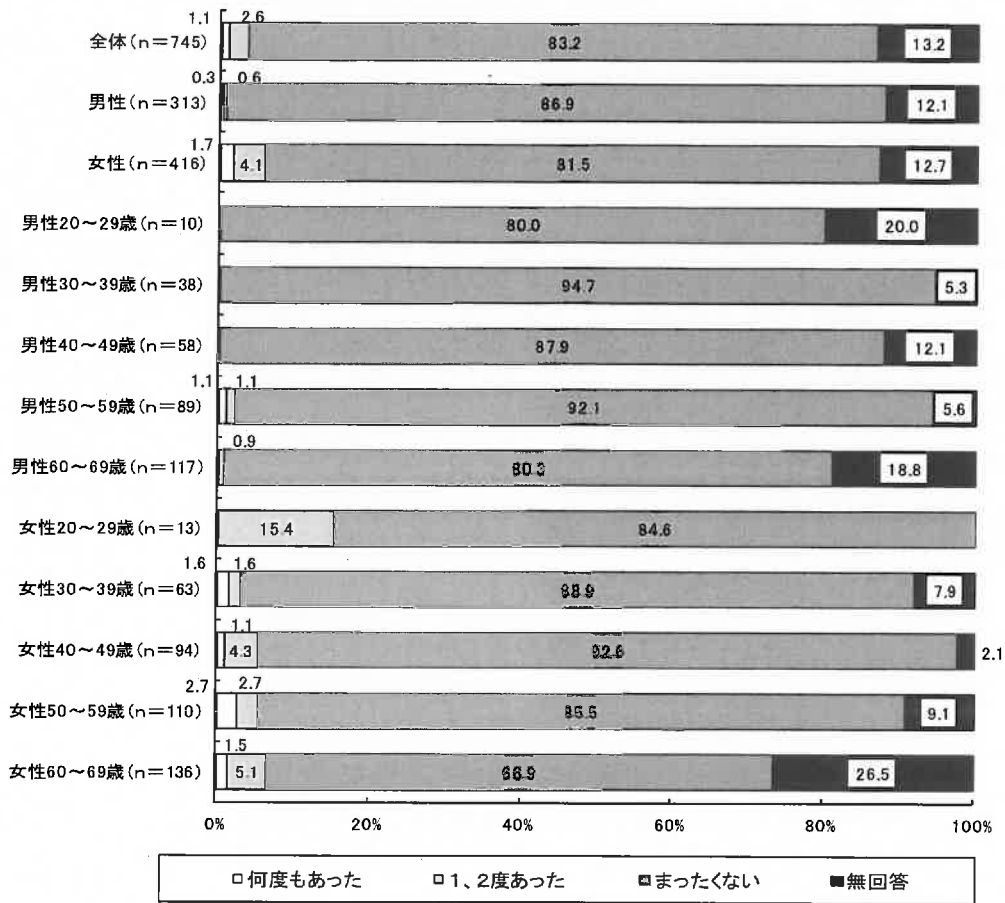
[図表 6-1-7] 過去5年以内に精神的暴力を受けた経験 (性別・年齢別) <<MA>>

	この1年にあった	この2~5年にあった	5年以内にはなかった	無回答
男性 20~29歳 (n=0)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
男性 30~39歳 (n=3)	2件 (40.0%)	0件 (0%)	3件 (60.0%)	0件 (0%)
男性 40~49歳 (n=2)	0件 (0%)	1件 (25.0%)	2件 (50.0%)	1件 (25.0%)
男性 50~59歳 (n=5)	3件 (75.0%)	0件 (0%)	1件 (25.0%)	0件 (0%)
男性 60~69歳 (n=7)	2件 (40.0%)	2件 (40.0%)	1件 (20.0%)	0件 (0%)
女性 20~29歳 (n=2)	0件 (0%)	1件 (100%)	0件 (0%)	0件 (0%)
女性 30~39歳 (n=5)	1件 (14.3%)	4件 (57.1%)	1件 (14.3%)	1件 (14.3%)
女性 40~49歳 (n=11)	2件 (20.0%)	0件 (0%)	5件 (50.0%)	3件 (30.0%)
女性 50~59歳 (n=18)	2件 (20.0%)	1件 (10.0%)	6件 (60.0%)	1件 (10.0%)
女性 60~69歳 (n=20)	0件 (0%)	1件 (25.0%)	3件 (75.0%)	0件 (0%)

(4) 性的暴力（性別・年齢別）

性的暴力を受けた経験について、性別で見ると、『あった』は男性で0.9%、女性で5.8%となっている。

[図表 6-1-8] 性的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《SA》



[図表 6-1-9] 過去5年以内に性的暴力を受けた経験（性別・年齢別）《MA》

	この1年にあった	この2~5年にあった	5年以内にはなかった	無回答
男性 20~29歳 (n=0)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
男性 30~39歳 (n=3)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
男性 40~49歳 (n=2)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)	0件 (0%)
男性 50~59歳 (n=5)	0件 (0%)	0件 (0%)	2件 (100%)	0件 (0%)
男性 60~69歳 (n=7)	0件 (0%)	0件 (0%)	1件 (100%)	0件 (0%)
女性 20~29歳 (n=2)	0件 (0%)	2件 (100%)	0件 (0%)	0件 (0%)
女性 30~39歳 (n=5)	1件 (50.0%)	0件 (0%)	1件 (50.0%)	0件 (0%)
女性 40~49歳 (n=11)	3件 (60.0%)	1件 (20.0%)	0件 (0%)	1件 (20.0%)
女性 50~59歳 (n=18)	1件 (16.7%)	1件 (16.7%)	4件 (66.7%)	0件 (0%)
女性 60~69歳 (n=20)	0件 (0%)	2件 (22.2%)	6件 (66.7%)	1件 (11.1%)

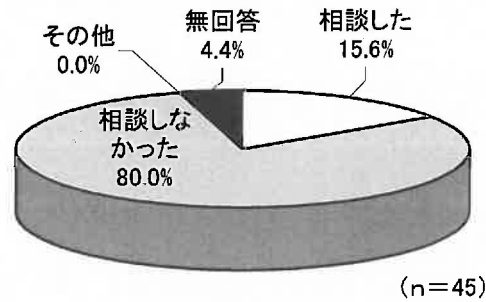
2. 配偶者から暴力を受けたときの相談先【問14-2】

問14-1で「この1年にあった」、「この2～5年にあった」と回答した人のうち、「相談しなかった」は80.0%を占めており、「相談した」は15.6%にとどまっている。

相談した場合の相談先では、「友人」が7件で最も多く、次いで「両親」が5件となっている。

相談しなかった理由では「相談してもむだだと思った」が15件で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思った」が14件、「自分が我慢すればこのままやっていると」が12件、「自分にも悪いところがあると思った」が9件、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」が6件の順となっている。

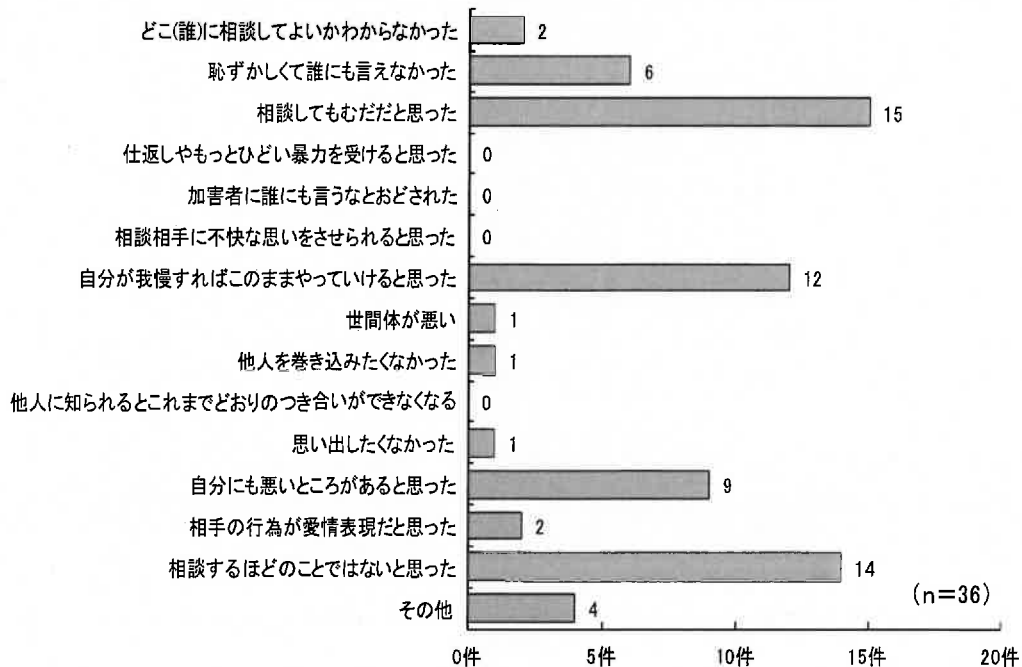
【図表 6-2-1】 配偶者から暴力を受けたときに誰かに相談したか《SA》



【図表 6-2-2】 配偶者から暴力を受けたときの相談先《MA》

相談先	件数
友人	7件
両親	5件
子供	1件

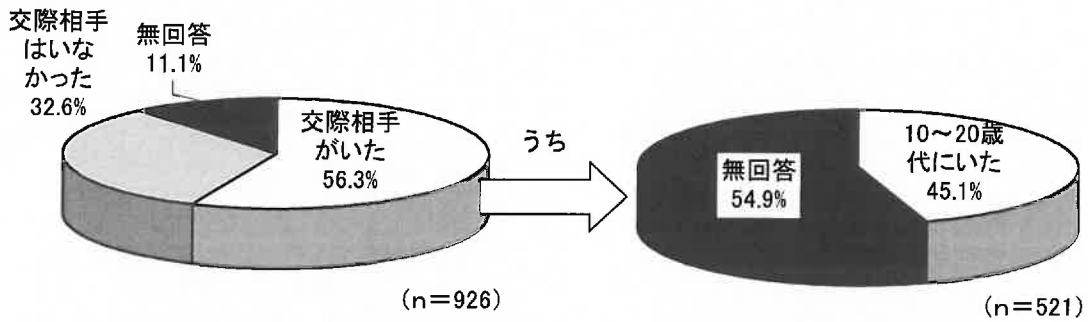
【図表 6-2-3】 配偶者から暴力を受けたときに相談しなかった理由《MA》



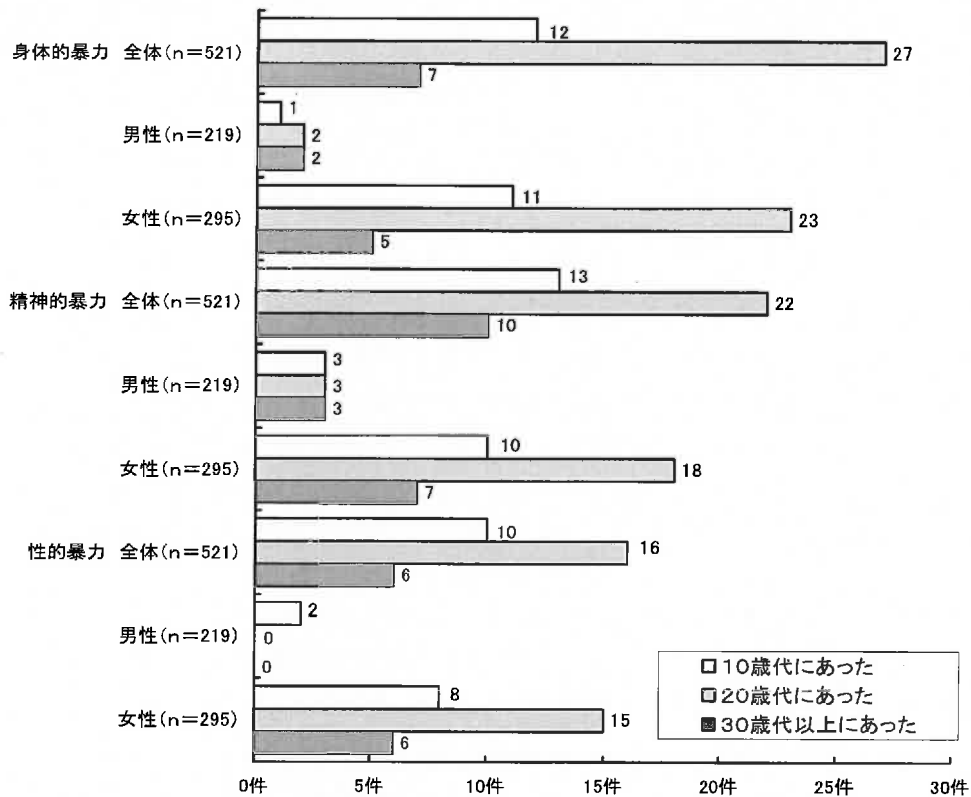
3. 交際相手から暴力を受けた経験【問15、問15-1】

配偶者となった相手以外に「交際相手がいた」は56.3%、そのうち「10～20歳代にいた」は45.1%であった。「交際相手がいた」と回答した人のうち、交際相手から暴力を受けた経験を性別で見ると、『あった』（「10歳代にあった」「20歳代にあった」「30歳代以上にあった」の合計）は、身体的暴力では男性で5件、女性で39件、精神的暴力では男性で9件、女性で35件、性的暴力では男性で2件、女性で29件となっている。

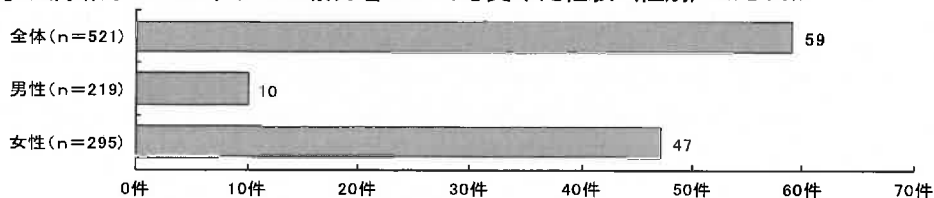
【図表 6-3-1】 交際相手の有無（配偶者となった相手以外）《SA》



【図表 6-3-2】 交際相手から暴力を受けた経験（性別）《MA》



【図表 6-3-3】 交際相手からいずれかの暴力を1つでも受けた経験（性別）《SA》



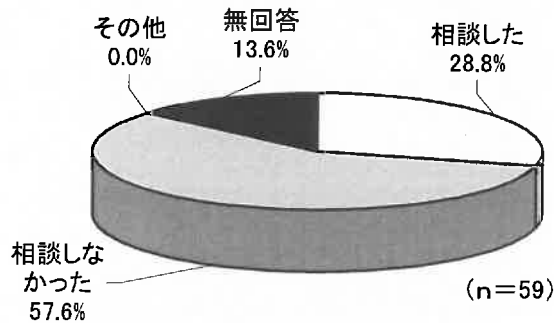
4. 交際相手から暴力を受けたときの相談先【問15-2】

問15-1で「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」と回答した人のうち、「相談した」は28.8%、「相談しなかった」は57.6%であった。

相談した場合の相談先では、「友人」が12件で最も多く、次いで「両親」が5件となっている。

相談しなかった理由では「相談するほどのことではないと思った」が14件で最も多く、次いで「相談してもむだだと思った」が9件、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」、「自分が我慢すればこのままやっていけると思った」が共に7件、「どこ(誰)に相談してよいかわからなかった」、「自分にも悪いところがあると思った」が共に5件の順となっている。

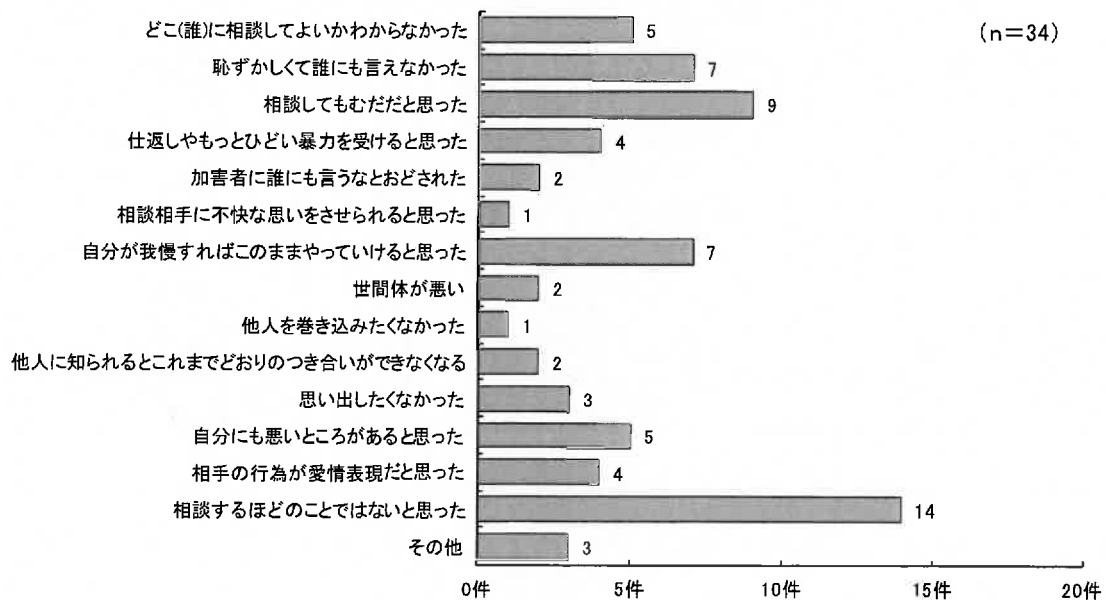
【図表 6-4-1】 交際相手から暴力を受けたときに誰かに相談したか《SA》



【図表 6-4-2】 交際相手から暴力を受けたときの相談先《MA》

相談先	件数
友人	12件
両親	5件
家族	1件
兄弟姉妹	1件
上司	1件
病院の精神科	1件

【図表 6-4-3】 交際相手から暴力を受けたときに相談しなかった理由《MA》



5. セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の経験【問16、問16-1】

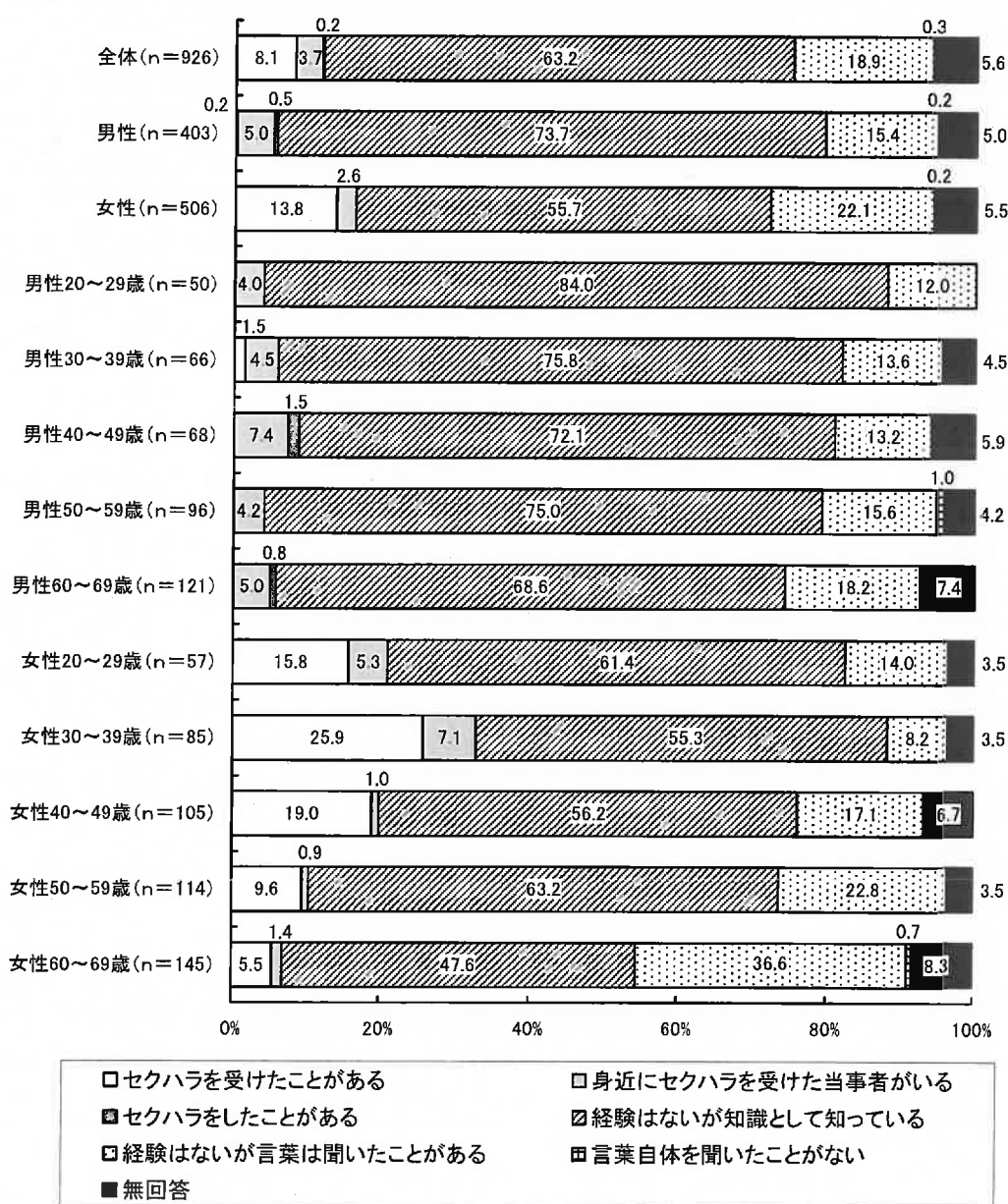
(1) 性別・年齢別

全体では「経験はないが知識として知っている」が63.2%と最も高く、次いで「経験はないが言葉は聞いたことがある」が18.9%、「セクハラを受けたことがある」が8.1%の順となっている。

性別でみると、男性は「経験はないが知識として知っている」が73.7%を占めており、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」が5.0%と女性よりやや高い。女性は「セクハラを受けたことがある」が13.8%と比較的高く、「経験はないが言葉は聞いたことがある」が22.1%と男性よりやや高い。

年齢別でみると、40代男性では「身近にセクハラを受けた当事者がいる」が7.4%と他の年代に比べてやや高い。女性では若い年代ほど「セクハラを受けたことがある」の割合が高く、30代で25.9%と最も高い。「経験はないが言葉は聞いたことがある」の割合は、男女共に年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60代女性では36.6%となっている。

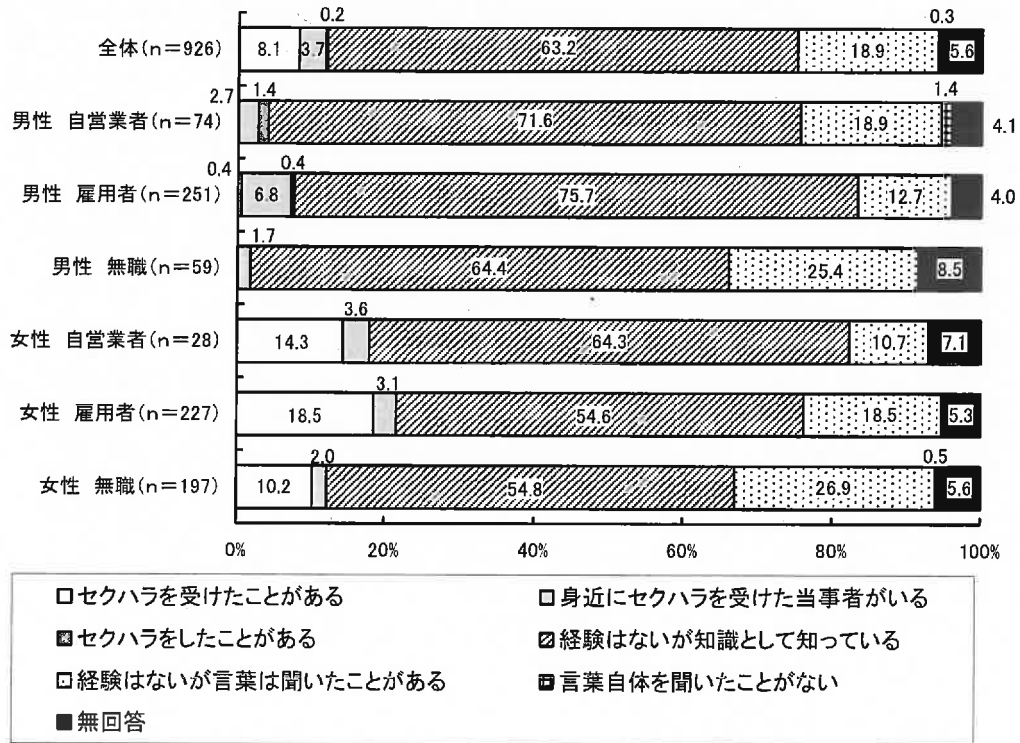
【図表 6-5-1】 セクハラ経験（性別・年齢別）《SA》



(2) 性別・職業別

職業別でみると、男性では「身近にセクハラを受けた当事者がいる」が雇用者で6.8%と相対的に高い。女性では「セクハラを受けたことがある」が雇用者で18.5%、自営業者で14.3%、無職で10.2%と比較的高い。「経験はないが言葉は聞いたことがある」の割合は男女共に無職で相対的に高い。

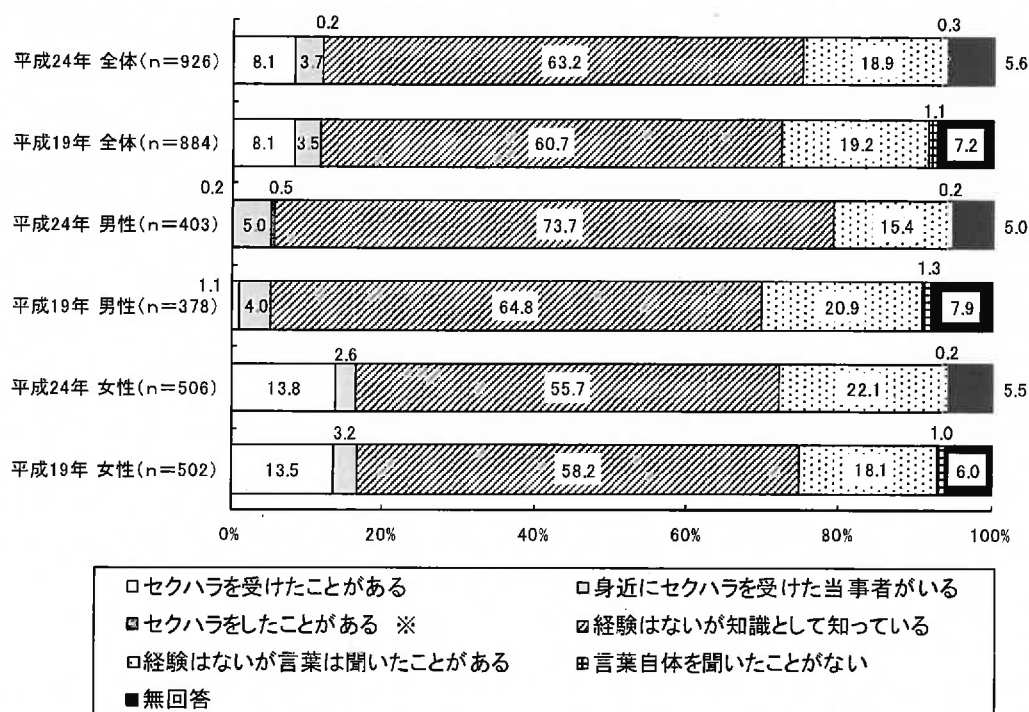
[図表 6-5-2] セクハラの実験 (性別・職業別) << SA >>



(3) 前回調査との比較

前回の調査と比較すると、全体と女性では大きな変化はみられないが、男性では「経験はないが知識として知っている」は64.8%から73.7%と8.9ポイントの増加、「経験はないが言葉は聞いたことがある」は20.9%から15.4%と5.5ポイントの減少となっている。

[図表 6-5-3] セクハラの実験 (前回調査との比較) <<SA>>



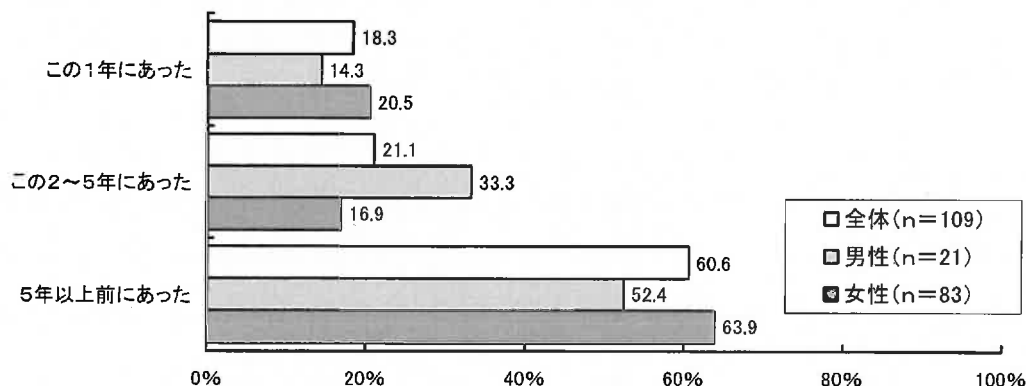
※注:平成19年調査では「セクハラをしたことがある」という選択肢はなかった

(4) セクハラを受けたのはいつ頃か

「セクハラを受けたことがある」、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」と回答した人のうち、全体では「5年以上前にあった」が60.6%と最も高く、次いで「この2~5年にあった」が21.1%、「この1年」にあった」が18.3%の順となっている。

性別でみると、男女共に「5年以上前にあった」が最も高くなっている。

[図表 6-5-4] セクハラを受けたのはいつ頃か (性別) <<MA>>



6. 「セクハラを受けた」または「身近にセクハラを受けた当事者がいる」ときの相談先【問16-2】

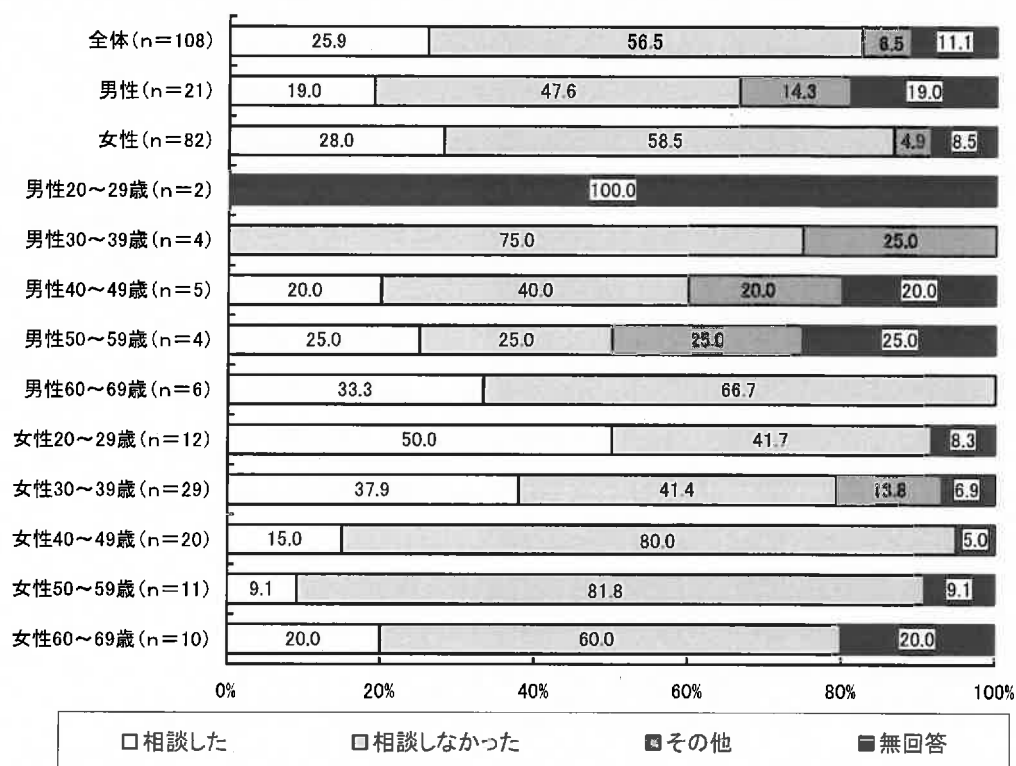
(1) 相談したかどうか

問16で「セクハラを受けたことがある」、「身近にセクハラを受けた当事者がいる」と回答した人のうち、全体では「相談した」は25.9%、「相談しなかった」は56.5%、性別でみると、「相談した」は男性で19.0%、女性で28.0%となっている。

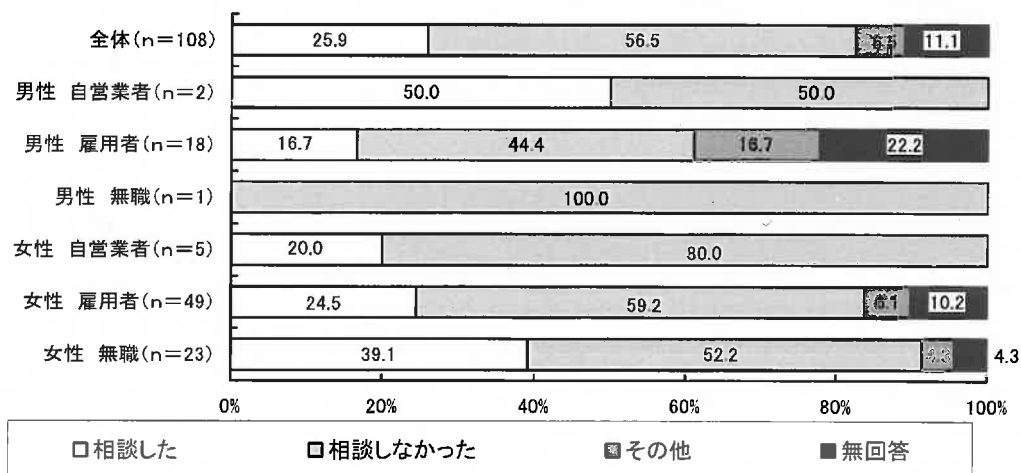
サンプル数は少ないが、年齢別でみると、「相談した」の割合は男性では年代が上がるにつれて高く、女性では若い年代ほど高く、20代で50.0%となっている。

職業別でみると、女性では「相談した」は無職で39.1%と相対的に高い。

[図表 6-6-1] セクハラを受けたときに誰かに相談したか（性別・年齢別）《SA》



[図表 6-6-2] セクハラを受けたときに誰かに相談したか（性別・職業別）《SA》



(2) 相談した場合の主な相談先

「友人」が10件で最も多く、次いで「上司」が8件、「職場の同僚」が6件、「両親」が5件の順となっている。

[図表 6-6-3] セクハラを受けたときの相談先《MA》

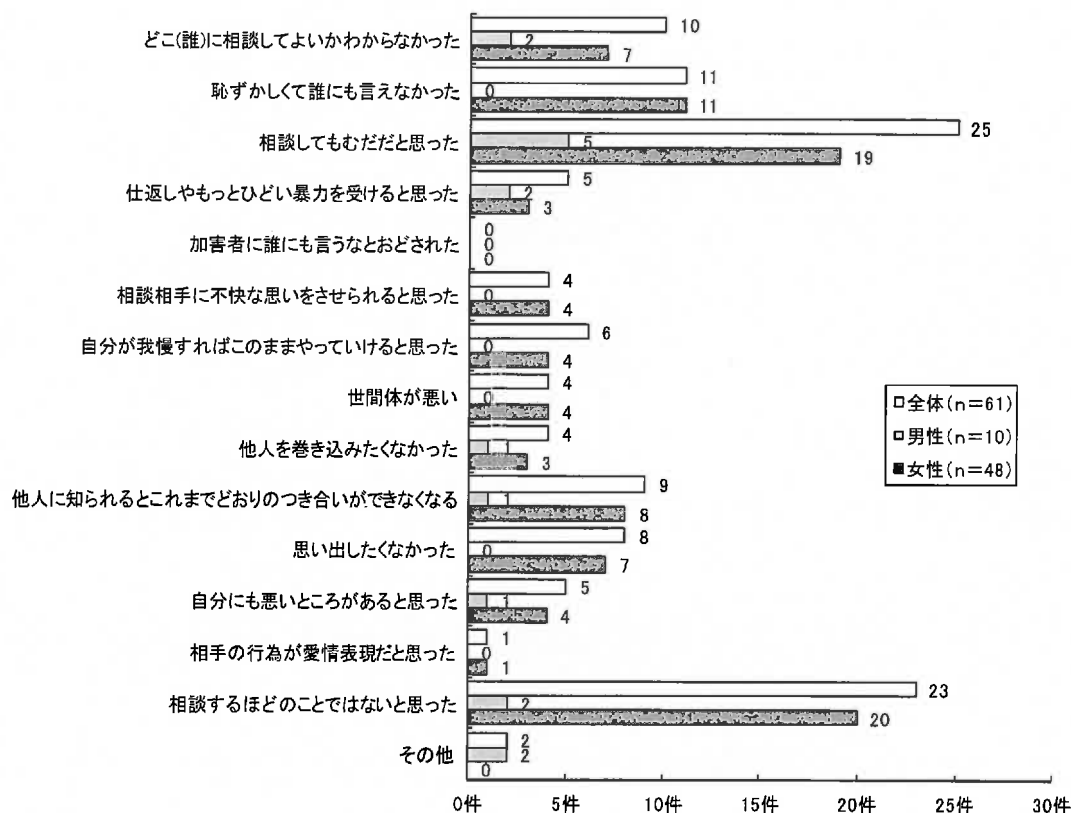
相談先	件数
友人	10件
上司	8件
職場の同僚	6件
両親	5件
夫	2件
県の相談所等	2件
家族	1件
社内のセクハラ窓口	1件

(3) 相談しなかった理由

全体では「相談してもむだだと思った」が25件で最も多く、次いで「相談するほどのことではないと思った」が23件、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」が11件、「どこ(誰)に相談してよいかわからなかった」が10件、「他人に知られるとこれまでどおりのつき合いができなくなる」が9件の順となっている。

性別でみると、女性では「相談するほどのことではないと思った」が20件、「相談してもむだだと思った」が19件と高い。

[図表 6-6-4] セクハラを受けたときに相談しなかった理由(性別)《MA》



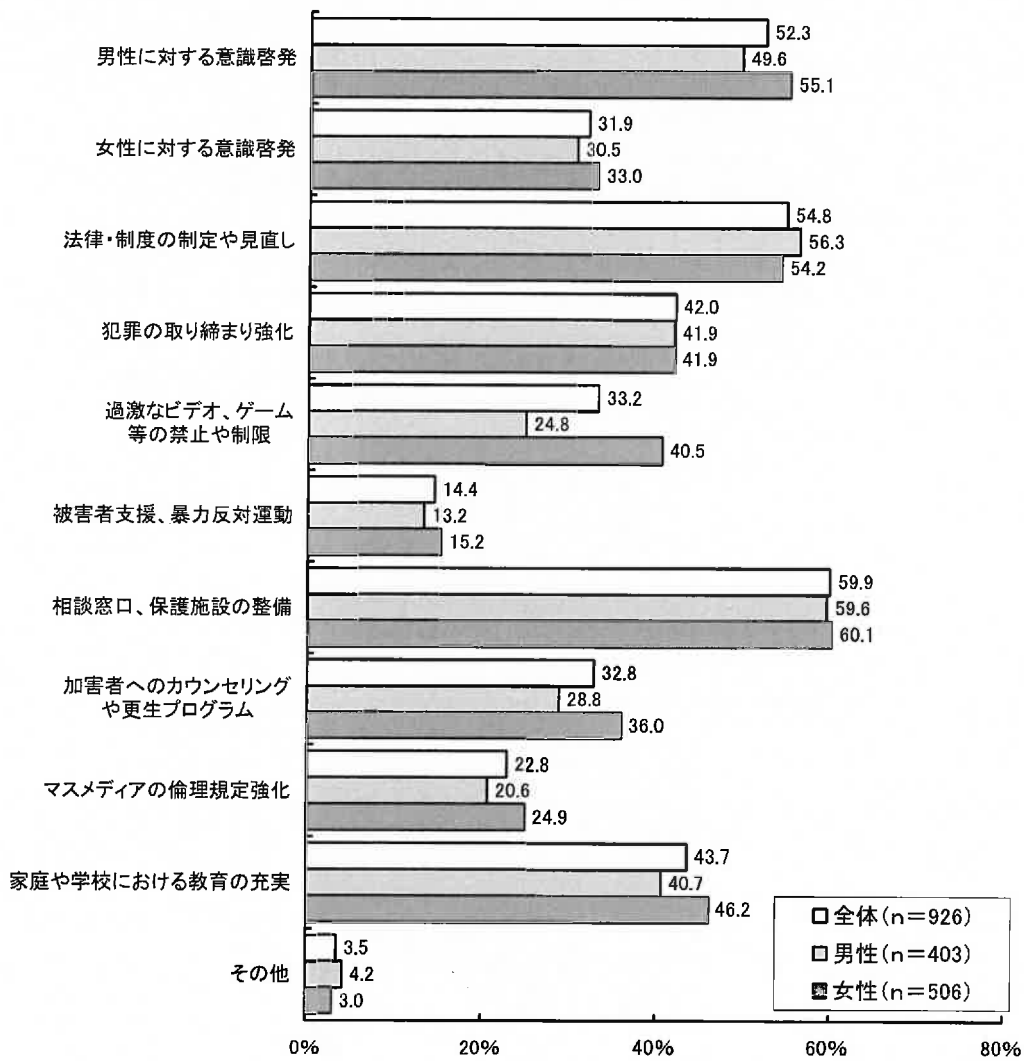
7. DVやセクハラをなくすために必要なこと【問17】

(1) 全体・性別

全体では「相談窓口、保護施設の整備」が59.9%と最も高く、次いで「法律・制度の制定や見直し」が54.8%、「男性に対する意識啓発」が52.3%の順となっている。

性別で見ると、男女共に「相談窓口、保護施設の整備」の割合が最も高く、「法律・制度の制定や見直し」、「男性に対する意識啓発」、「家庭や学校における教育の充実」、「犯罪の取り締まり強化」の割合が高い。「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」は女性は40.5%で男性の24.8%と比べて15.7ポイント高くなっており、大きな差がある。

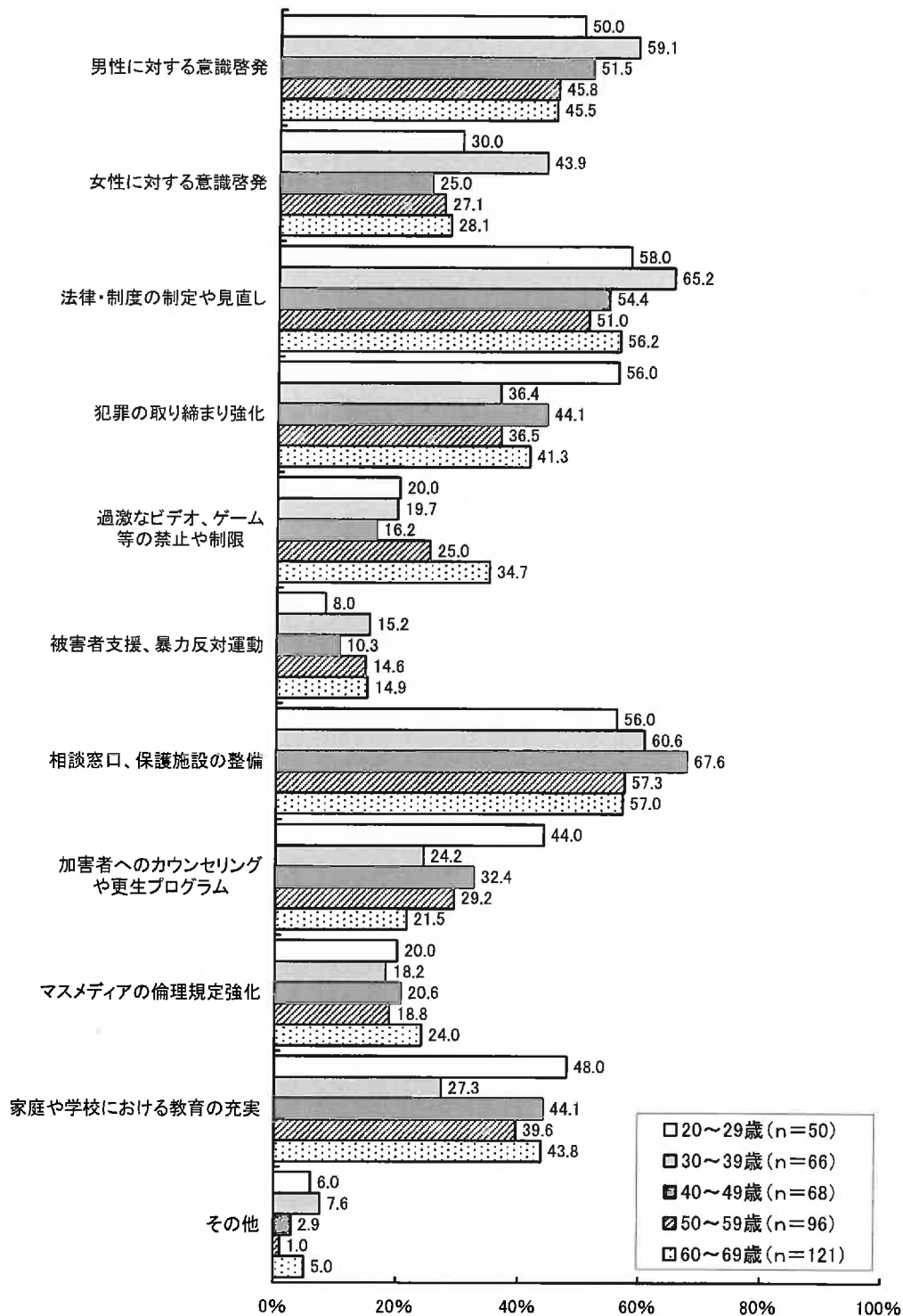
【図表 6-7-1】 DVやセクハラをなくすために必要なこと（性別）〈MA〉



(2) 男性・年齢別

年齢別でみると、男性では「男性に対する意識啓発」、「法律・制度の制定や見直し」、「相談窓口、保護施設の整備」の割合はいずれの年代も高い。「女性に対する意識啓発」は30代で43.9%、「犯罪の取り締まり強化」は20代で56.0%、「加害者へのカウンセリングや更生プログラム」は20代で44.0%と他の年代に比べて高い。

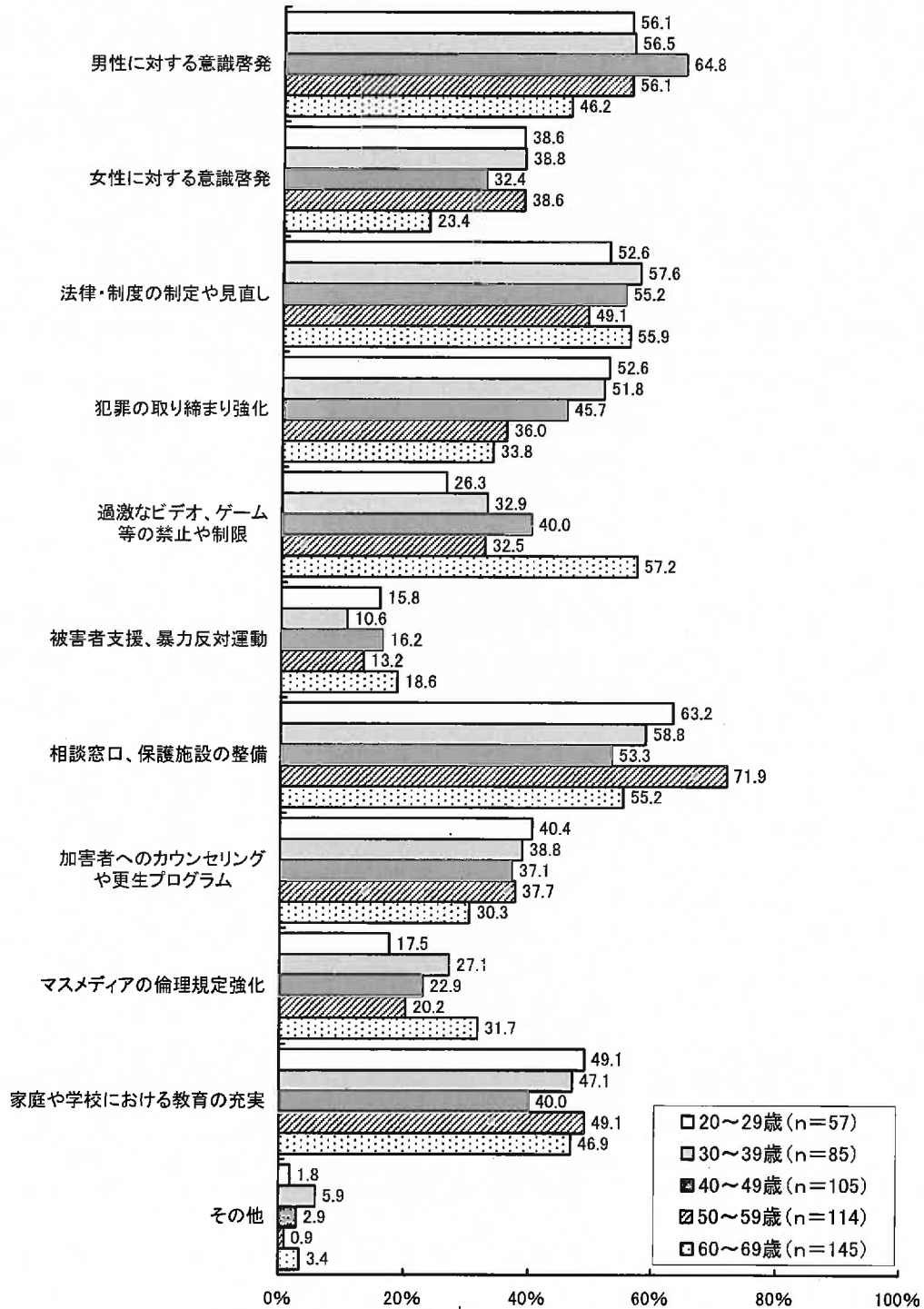
[図表 6-7-2] DVやセクハラをなくするために必要なこと（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、女性では男性と同様に「男性に対する意識啓発」、「法律・制度の制定や見直し」、「相談窓口、保護施設の整備」の割合はいずれの年代も高い。「男性に対する意識啓発」は40代で64.8%、「相談窓口、保護施設の整備」は50代で71.9%、「過激なビデオ、ゲーム等の禁止や制限」は60代で57.2%と他の年代に比べて高い。「犯罪の取り締まり強化」、「加害者へのカウンセリングや更生プログラム」の割合は若い年代ほど高くなる傾向がみられる。

【図表 6-7-3】DVやセクハラをなくするために必要なこと（女性・年齢別）《MA》



第七章 社会参画について

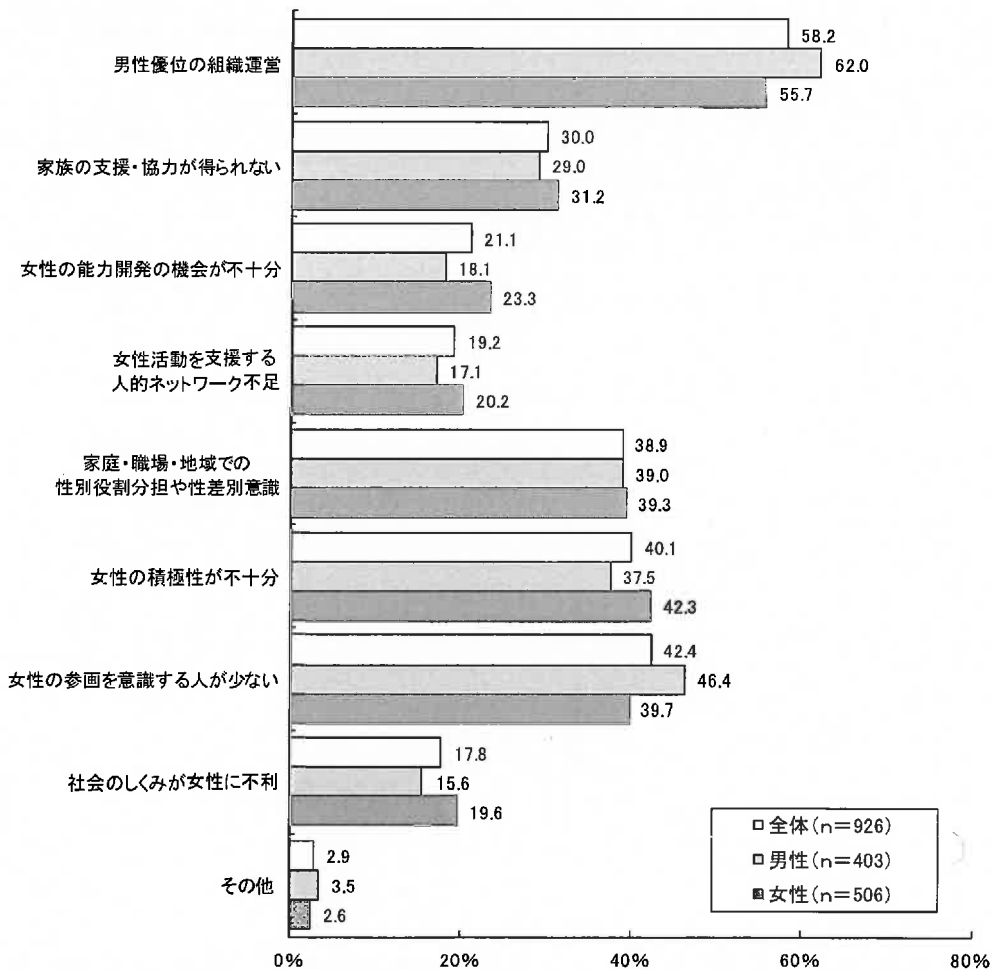
1. 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由【問18】

(1) 全体・性別

全体では「男性優位の組織運営」が58.2%と最も高く、次いで「女性の参画を意識する人が少ない」が42.4%、「女性の積極性が不十分」が40.1%、「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」が38.9%、「家族の支援・協力が得られない」が30.0%の順となっている。

性別で見ると、「男性優位の組織運営」が男性で62.0%、女性で55.7%と共に最も高い。次いで男性は「女性の参画を意識する人が少ない」が46.4%、「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」が39.0%の順となり、女性は「女性の積極性が不十分」が42.3%、「女性の参画を意識する人が少ない」が39.7%の順となっている。

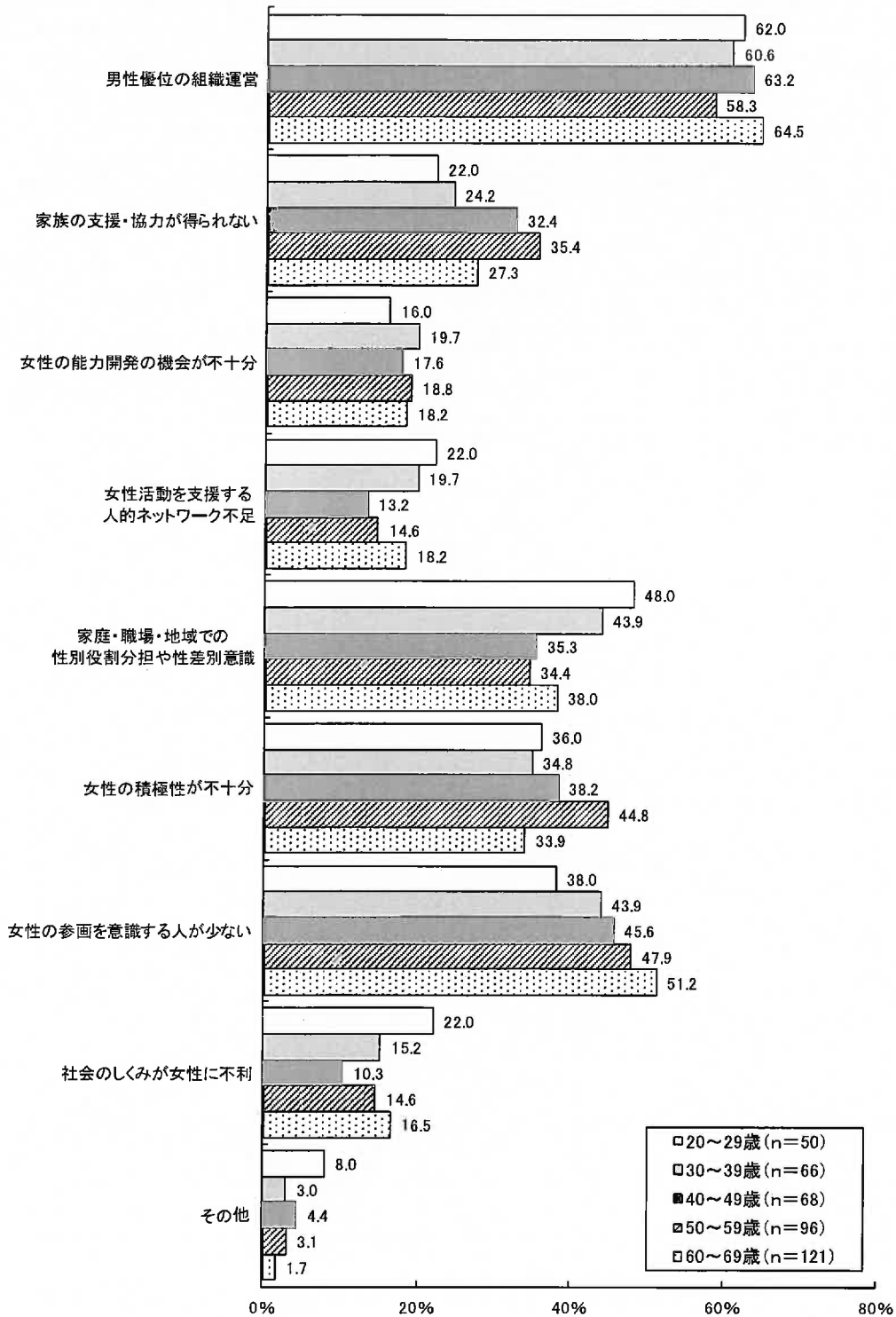
【図表 7-1-1】 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（性別）《MA》



(2) 男性・年齢別

年齢別でみると、男性ではいずれの年代も「男性優位の組織運営」の割合が最も高い。「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」は20代で48.0%、30代で43.9%と他の年代に比べて高く、「女性の参画を意識する人が少ない」の割合は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

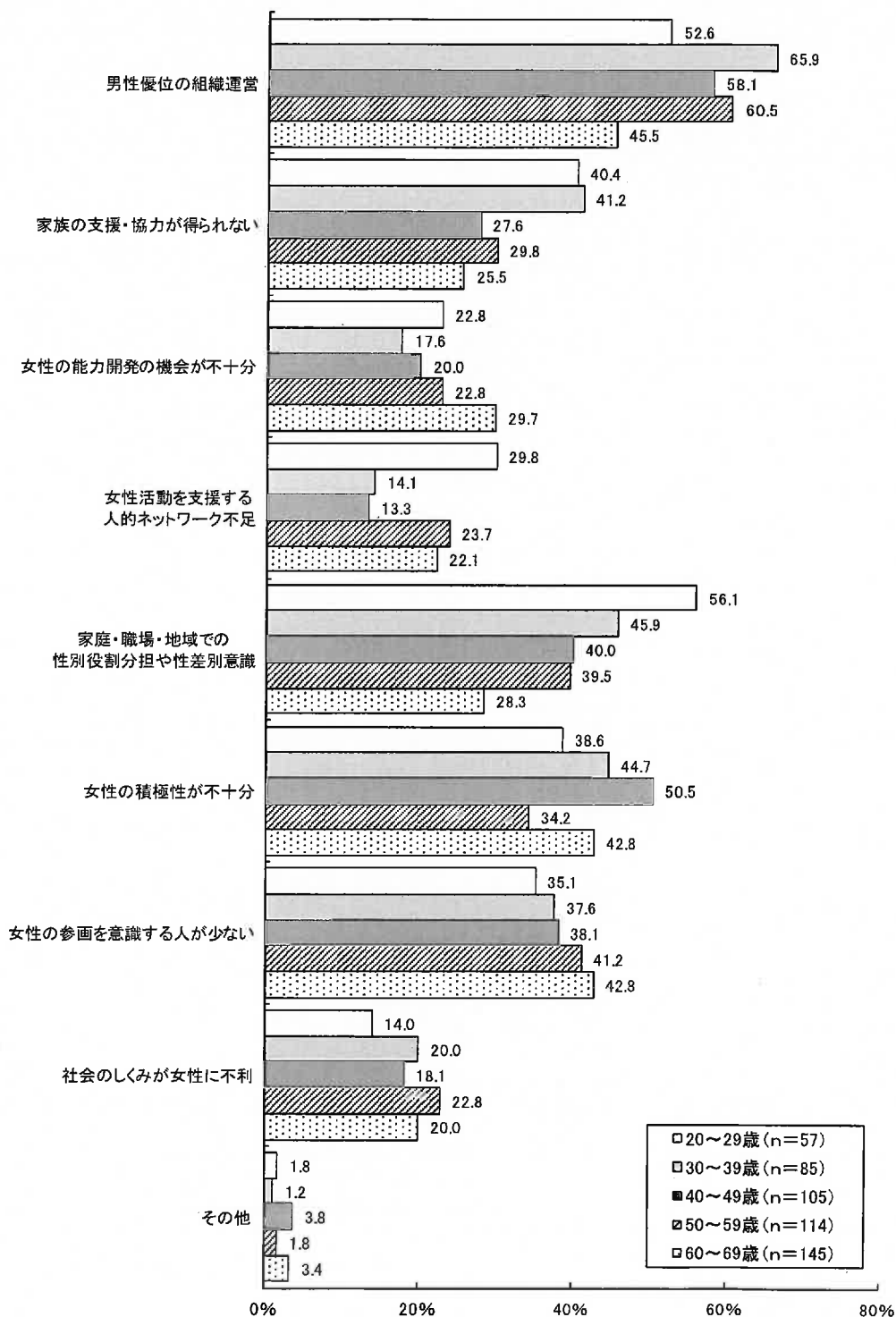
[図表 7-1-2] 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、女性ではいずれの年代もおおむね「男性優位の組織運営」の割合が最も高い。「家族の支援・協力が得られない」、「家庭・職場・地域での性別役割分担や性差別意識」の割合は若い年代ほど高く、「女性の参画を意識する人が少ない」の割合は僅かながら、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

[図表 7-1-3] 企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由（女性・年齢別）《MA》



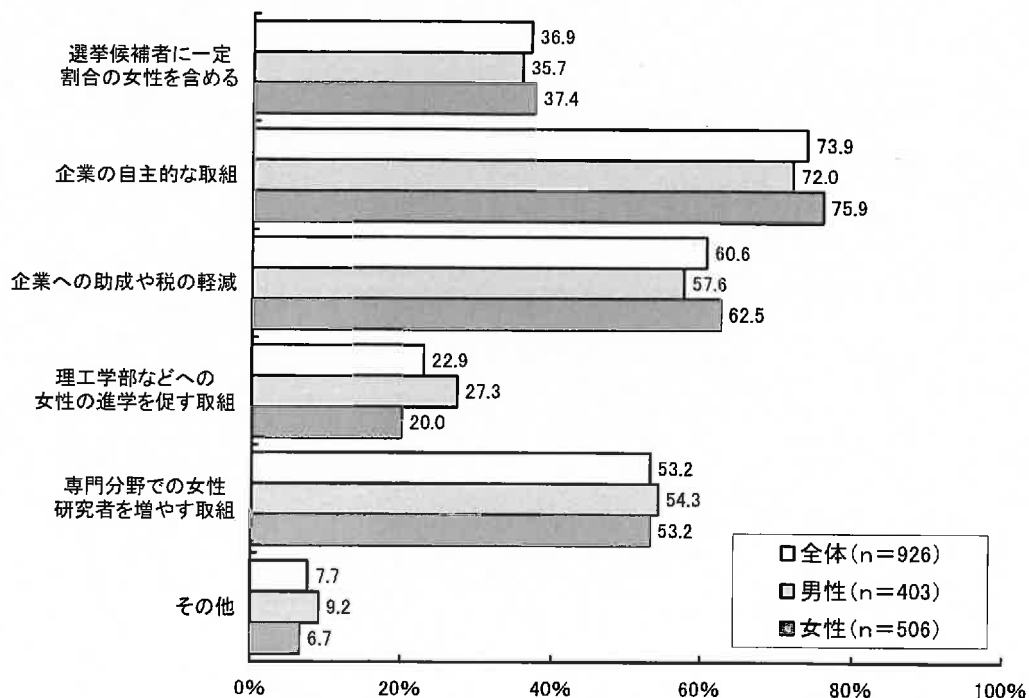
2. 女性の社会進出を進めるために必要なこと【問19】

(1) 全体・性別

全体では「企業の自主的な取組」が73.9%と最も高く、次いで「企業への助成や税の軽減」が60.6%、「専門分野での女性研究者を増やす取組」が53.2%の順となっている。

性別で見ると、全体と同様の傾向で、男女間に大きな違いはみられない。

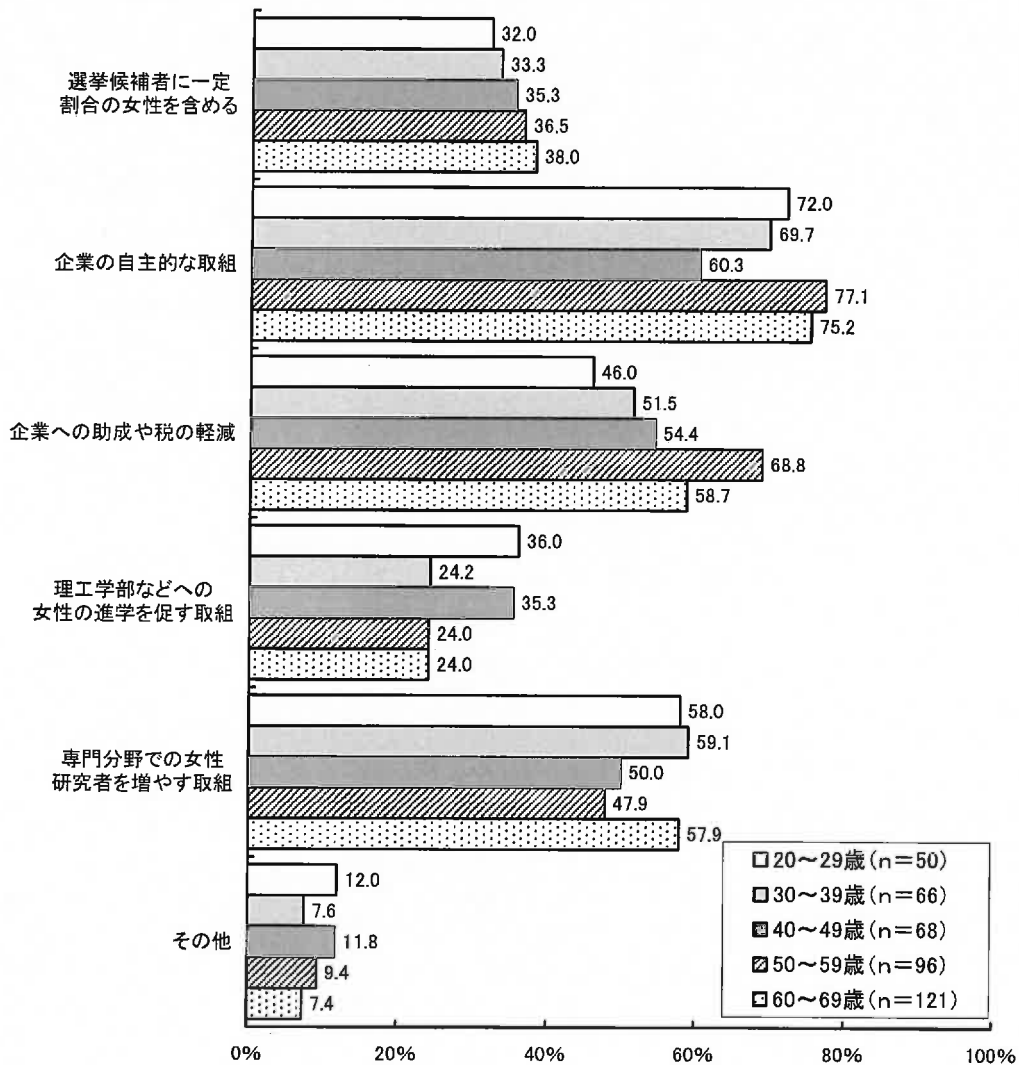
〔図表 7-2-1〕女性の社会進出を進めるために必要なこと（性別）〈MA〉



(2) 男性・年齢別

年齢別でみると、男性ではいずれの年代も「企業の自主的な取組」の割合が最も高い。「選挙候補者に一定割合の女性を含める」の割合は僅かながら、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「企業への助成や税の軽減」の割合は年代が上がるにつれて高く、50代で68.8%となっている。「専門分野での女性研究者を増やす取組」は20～30代と60代で60%程度と、他の年代に比べて高い。

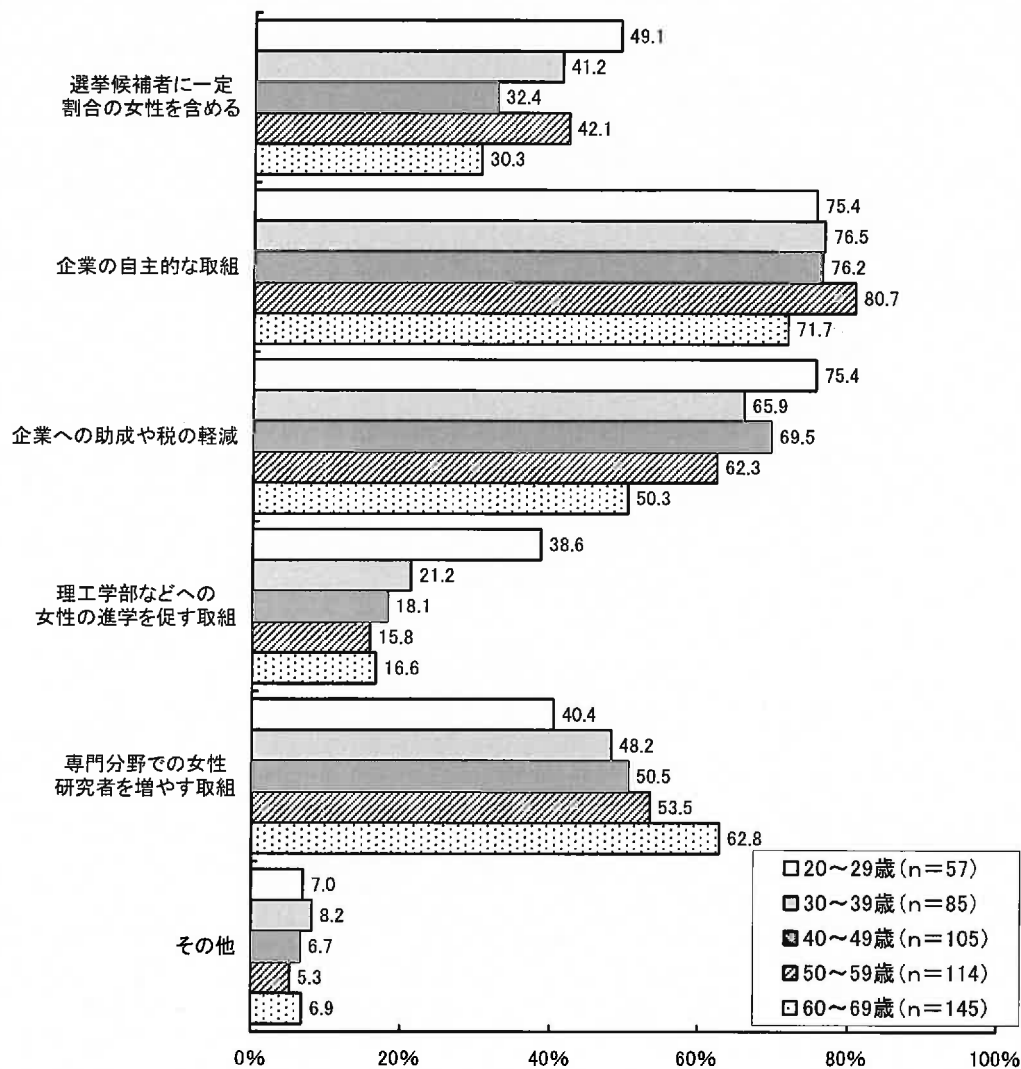
[図表 7-2-2] 女性の社会進出を進めるために必要なこと（男性・年齢別）《MA》



(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、女性では男性と同様に、いずれの年代も「企業の自主的な取組」の割合が最も高い。「企業への助成や税の軽減」の割合は若い年代ほど高く、「専門分野での女性研究者を増やす取組」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。「理工学部などへの女性の進学を促す取組」は20代で38.6%と他の年代に比べて高くなっている。

[図表 7-2-3] 女性の社会進出を進めるために必要なこと（女性・年齢別）《MA》



第八章 岐阜県の男女共同参画社会づくりの推進施策について

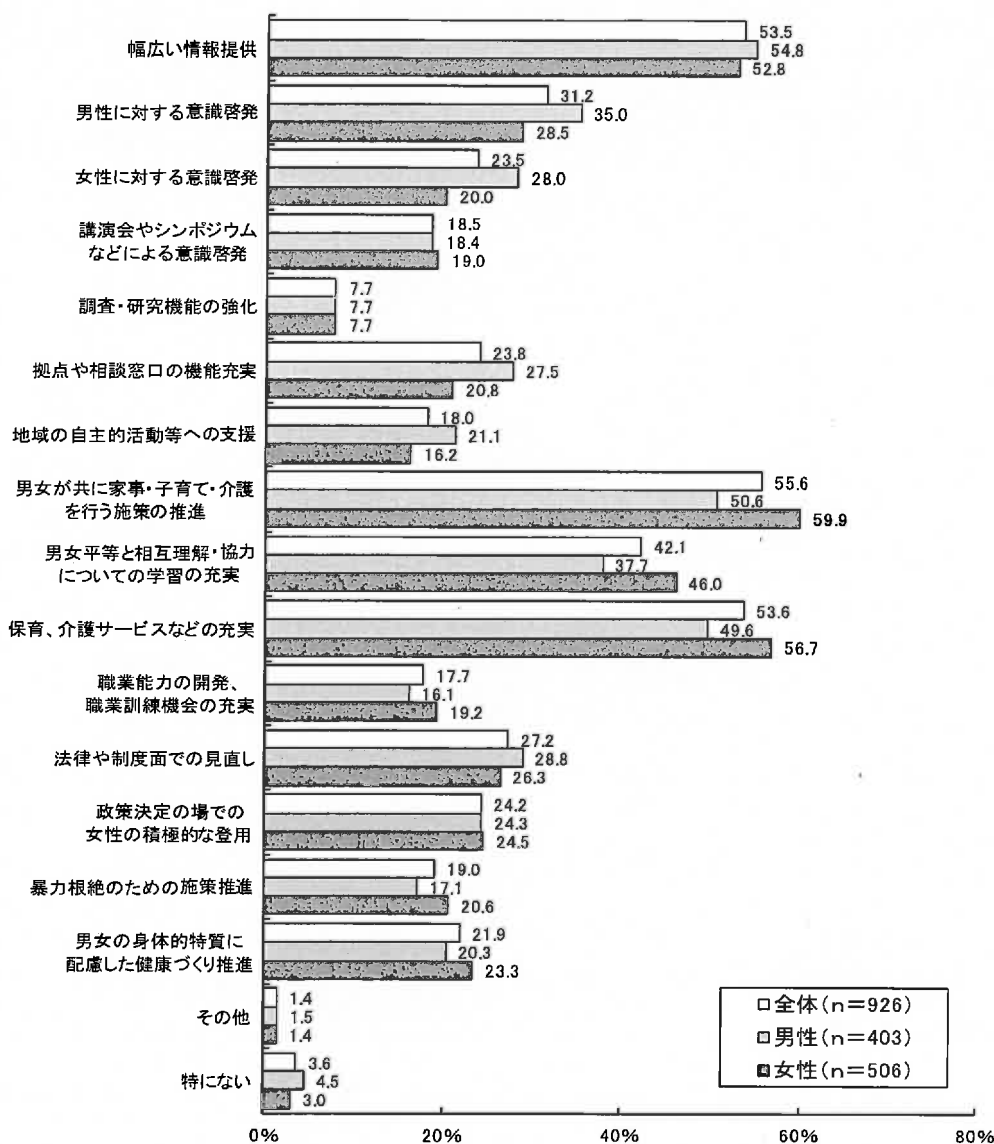
1. 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れていくべきこと【問20】

(1) 全体・性別

全体では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」が55.6%と最も高く、次いで「保育、介護サービスなどの充実」が53.6%、「幅広い情報提供」が53.5%、「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」が42.1%の順となっている。

性別で見ると、男性では女性に比べて「男性に対する意識啓発」、「女性に対する意識啓発」、「拠点や相談窓口の機能充実」の割合が高い。女性では男性に比べて「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」、「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」、「保育、介護サービスなどの充実」の割合が高く、男女間でやや違いがみられる。

[図表 8-1-1] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（性別）《MA》

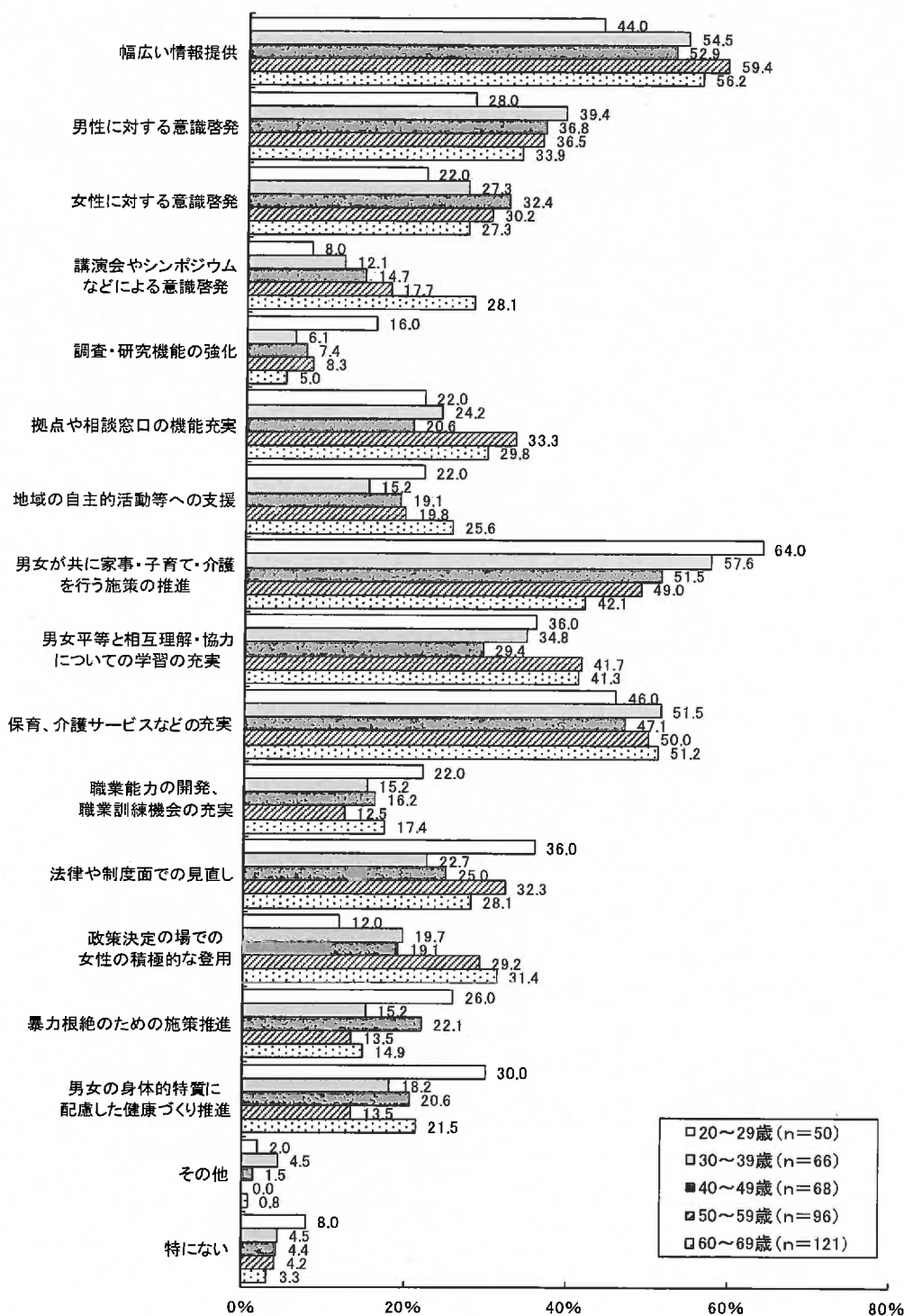


(2) 男性・年齢別

年齢別でみると、男性では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」の割合は若い年代ほど高く、20代で64.0%と最も高い。「幅広い情報提供」、「保育、介護サービスなどの充実」の割合はいずれの年代も高く、「講演会やシンポジウムなどによる意識啓発」の割合は年代が上がるにつれて高くなっている。

【図表 8-1-2】 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（男性・年齢別）

《MA》

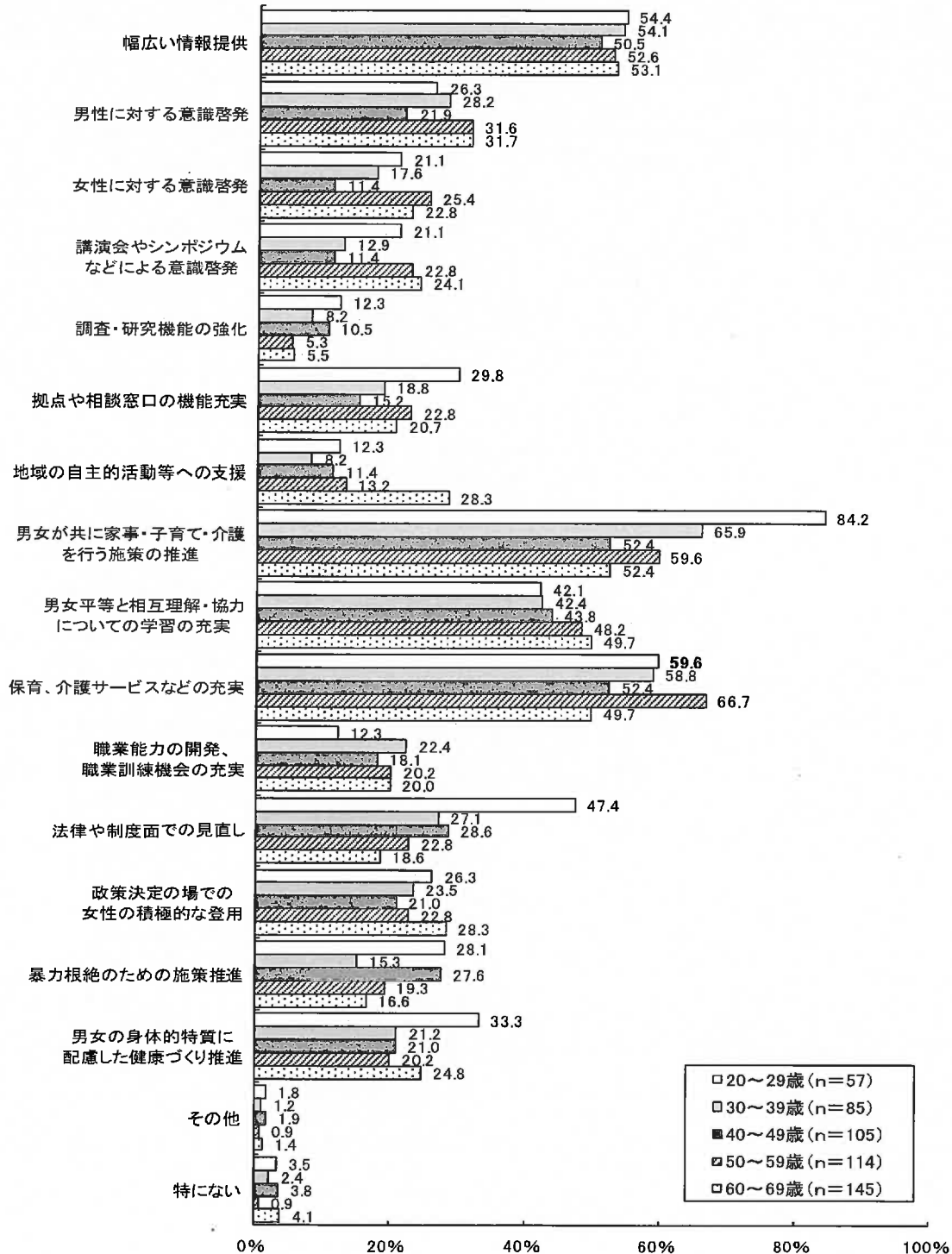


(3) 女性・年齢別

年齢別でみると、女性では「男女が共に家事・子育て・介護を行う施策の推進」の割合は若い年代ほど高く、20代で84.2%と最も高い。「幅広い情報提供」、「保育、介護サービスなどの充実」の割合はいずれの年代も高い。「男女平等と相互理解・協力についての学習の充実」の割合は僅かながら、年代が上がるにつれて高くなっており、「法律や制度面での見直し」は20代で47.4%と他の年代に比べて高い。

[図表 8-1-3] 男女共同参画社会づくりのために、県や市町村が力を入れるべきこと（女性・年齢別）

《MA》



2. 自由意見

(1) 女性の進出を支える条件について

- ◆女性が社会参加しやすい制度やサービスの充実を希望する。(50代 女性)
- ◆男女の賃金の差がなくなることが平等社会へつながる。(60代 女性)
- ◆雇用において男女同じような賃金を求める。(40代 女性)
- ◆優秀な女性が沢山埋もれていると思うので、そういう人材を発掘する何かがほしい。(30代 男性)
- ◆女性が仕事を続けるためには、会社の協力が必要。お互いを思いやる気持ちが大切。(40代 女性)
- ◆女性が職業を持つと、子育てが大きな負担になっていると思う。男性にも育児休暇を週1~2回とれるように制度化してほしい。(60代 女性)
- ◆女性が働くにあたって、保育園への入園が困難なので、施設を増やしてほしい。(30代 女性)
- ◆女性の賃金が低すぎる。保育所など、働く女性を支える仕組みを充実してほしい。(60代 女性)
- ◆女性は出産、育児後の就業がとても難しい。保育所をもっと多くしてほしい。高齢者より未来のことにもっと税金を使うべき。(60代 女性)
- ◆岐阜県はまだ男女共同の意識が低いように感じる。女性が働き続けられるよう、保育園だけでなく、小学生が放課後に過ごせる場所を充実してほしい。(40代 女性)

(2) 意識改革・教育について

- ◆女性自身の意識改革が必要。(50代 女性)
- ◆女性は女性にしかできないことを自覚しなければならない。男女平等をはき違えている人が多いように思う。(60代 女性)
- ◆男女の人数比率より能力向上。得意分野に積極的に進むべき。女性の意識改革。(50代 男性)
- ◆女性も地域に根づく活動をする意識を持つと良い。(30代 男性)
- ◆育児休暇を取るのが恥ずかしいと感じる男性は多いと思う。育児休暇を取った人に、もっとメリットがほしい。(30代 女性)
- ◆育児には母親が必要なので、女性が行わねばならない。男性も子育てに参加することは、親子お互いの為になると考える。(40代 女性)
- ◆田舎では高齢者による偏見が強く、「女のくせに」など悪口を言われる。高齢者に考え方を変わってもらうような施策を検討してほしい。(50代 男性)
- ◆お互いに尊重し合う気持ちや、自分の気持ちを穏やかに保てるように、家庭や地域で一人ひとりが常に考えて生活したい。(50代 女性)
- ◆男性は仕事、女性は家庭を守るべきと考えている高齢者が多い。こういう企画に若い人に参加してもらおうと、より理解が得られるのではないか。(50代 女性)
- ◆女性が男性に頼らない生き方を学べたらと思う。(50代 女性)
- ◆学校での出席番号は、男子が先で女子が後だったので、女性としては少し不愉快だった。些細なことだが、小さいことから始めるのも必要ではないか。(20代 女性)
- ◆慣習などで男女に価値観の違いがあるので、成長と共に平等意識が当たり前になるような社会環境が必要。(30代 男性)
- ◆経営者など組織を運営していく人の意識改革が必要だと思う。(20代 女性)
- ◆高齢者よりも若い人たちに力を入れ、学校教育の見直しが必要ではないか。(40代 男性)
- ◆個人を尊重した平等を目指す。子どもの頃からの教育が大切である。(60代 女性)
- ◆家事、育児、介護の価値観の向上。(40代 女性)
- ◆性暴力に対する厳しい処罰を与え、再犯防止を防ぐ。(40代 女性)
- ◆セクハラ、パワハラについての教育に力を入れてほしい。(40代 女性)
- ◆セクハラは男女共に過敏になりすぎている。問題が発生した時に、両者の意見を平等に判断するシステムが貧相すぎる。誤認や冤罪が防止できないと、この類の問題は解決しない。(30代 男性)
- ◆DVについては厳しい法的対応をすべき。(50代 男性)

- ◆男女共同参画の推進や意識啓発という格好良い言葉を並べるだけで、何も進んでいないのが現状である。法律や制度面での見直しを行う。(60代 男性)
- ◆男女ではなく、人としての基本を幼い時から教育することも大切。(60代 女性)
- ◆男女共に相手の立場を尊重し、互いに理解し合うことが重要。道徳観や倫理観をしっかり養うことが大切。(50代 男性)
- ◆男女共に意識改革が必要かつ重要。子どもを育てる環境の充実に努めるのが良い。(20代 男性)
- ◆男女平等といっても責任が伴うので、各自がきちんと自覚できるような社会になれば良い。(50代 女性)
- ◆人を敬い尊重することを学ぶことで、DVやセクハラといった問題が改善されるのではないかと。(30代 女性)
- ◆男女平等の本質をはき違えないよう、きちんと教育する必要がある。子を産むことは女性にしかできないし、男女は全てにおいて同じではない。何が平等なのかをしっかりと定着させる必要がある。(40代 男性)
- ◆男女平等は当然だが、誤った平等感を植えつけられている人もみられる。今一度、教育を見直す時期ではないか。(30代 男性)
- ◆男性しかできないこと、女性しかできないこと、各自が能力を認識し、それを社会に活かして貢献する。(60代 男性)
- ◆男性だけを批判するのではなく、女性もそれなりに努力する必要がある。住む地域によっては十分に優遇されている所もある。(60代 女性)
- ◆男性だろうが女性だろうが、できる人はできると思う。男女というより一人ひとりの問題で、目の前のことを精一杯やれば良い。(20代 男性)
- ◆男性でも女性でも、自分の能力を伸ばすことができるような制度をつくる。(50代 男性)
- ◆男性の育児休暇を実際に使える会社は少なく、制度ができて今までのままでは意味がない。意識改革をしない限り、社会は変わっていかない。(30代 女性)
- ◆男性は一步家事へ、女性は一步地域行事へ参加してみると、バランスが良くなるのでは。(40代 女性)
- ◆男性優位でも女性優位でもなく、一人ひとりが個人を尊重すれば皆が過ごしやすい。(20代 女性)
- ◆制度より意識の問題。(50代 女性)
- ◆中学生や高校生に対し、学校教育の場で定期的に意識啓発を実施する必要がある。(60代 男性)
- ◆何より社会の意識を変えなければ、制度を整えたところで利用できず意味がない。教育の現場で長い時間をかけ、正しい男女平等を教えるべき。(30代 女性)

(3) 広報・啓発活動・意見交換・意見収集について

- ◆行政の制度で定めるのではなく、地域単位で状況を把握、公表して話し合う。男女共同参画社会とは何かを、個人が考える機会を与えることから始まると思う。(20代 男性)
- ◆共同参画であるならば、平等性を重視した質問内容にすべき。(40代 男性)
- ◆男性があまり進出していない分野を問題視していない、このアンケート自体が男女平等でない。(30代 男性)
- ◆共同参画など言葉や表現が難しい。もっと分かりやすい言葉だと良い。(30代 女性)
- ◆男女平等とよく聞かすが、漠然として分かりにくい。(60代 男性)
- ◆男女2,000人の統計数値では参考にならない。10倍は必要。(60代 男性)
- ◆とても難しい問題だと思う。いろいろな人の意見を聞いてほしい。(60代 女性)
- ◆私の周囲では、男女共同参画の内容を理解している人は少ない。(40代 女性)
- ◆男女共同参画してみたいと思うようなイベントを多方面で周知すると良い。(60代 女性)

- ◆名前はよく耳にするが、具体的に何かはつきりしない。身近な運動であることを、キャラクターやミニドラマ等でアピールすると良い。(60代 女性)
- ◆法や制度が整備されても知らない人や、活かすことができない人が多いと思う。もっと社会へ発信して、活発に活動しなければならない。(40代 女性)

(4) 男女共同参画に対する疑問・懸念など

- ◆60歳以上が多くを占めている現状で、男女共同参画の早急な実現は難しい。30～40代が高齢者になった頃には、性差別や不平等は少なくなると思う。(40代 男性)
- ◆男は仕事をして、女は家庭を守るのが一番だと思う。女性に何を求めているのか、アンケートでは全く理解できない。(40代 男性)
- ◆オリンピック選手の飛行機の座席を、男女でビジネスとエコノミーに区別したのも、男女差別の無意識な表れではないか。(60代 男性)
- ◆家庭、職場、地域社会において、適材適所でそれぞれの役割が果たせれば良い。平等ばかりを口にしたくない。(50代 女性)
- ◆完璧な男女平等になると、女性も重労働をしなくてはならず大変効率が悪くなるので、ある程度の適材適所は残してほしい。男女ではなく、一人の人間として個人個人の能力を発揮できるような社会になってほしい。(30代 女性)
- ◆基本的には女性は家事を行い、家を守ってほしい。(60代 男性)
- ◆共同参画や平等社会など言わなくても、男性らしく、女性らしく十分充実した社会のしくみが築ければ、問題はないはず。(60代 男性)
- ◆公務員や大企業では進んでいるが、一般企業では経済が安定しない限り進まない。将来に明るさが持てるようになれば、男女共同参画社会も実現するのではないか。(60代 女性)
- ◆時間のある女性にはどんどん社会で活躍してほしいが、育児中の女性が子育てをせず、仕事中心になるのは危険と感じる。親には子どもをしっかり見つめる時間が必要。(40代 女性)
- ◆自分が受けた教育の考えは今でも変わることなく、女性は女性の、男性は男性の分野で活躍すれば良いという、昔からの考えで生活している。(60代 女性)
- ◆社会進出や収入を得ることも必要だが、子どもを育てることの重要性を忘れてはいけない。(40代 女性)
- ◆今の学校教育で男女差は縮まっていると感じるが、豊かな中で意識変革は進みにくいと思う。(60代 女性)
- ◆身体的相違を含めての男女平等の考え方が必要だと思う。(30代 女性)
- ◆身体や精神的な部分で、男女の差はあって然るべき。無理に共同参画社会をつくらうとして、女性優位の状況にならないよう心がけてほしい。(30代 男性)
- ◆シンポジウムを開催しても、関心のある人しか興味を持たない。男女差別は一部の世代だけだと思う。(20代 男性)
- ◆男女は別なので、平等である必要はないと思う。(30代 女性)
- ◆全て男女平等という考えはおかしい。男女にはそれぞれの役割があると思う。(50代 女性)
- ◆全てにおいて男女平等である必要はなく、トータルでみて平等であれば良いのでは。(30代 男性)
- ◆全て平等でなくても、個々に応じた能力や資質で社会を築けば良い。(60代 男性)
- ◆性差に伴う適正もあるので、何でも男女平等と主張するつもりはない。(30代 女性)
- ◆性別にとらわれず、適切な人材を登用すれば良い。女性の管理職登用を進めることに、どのようなメリットがあるのか説明してほしい。(20代 女性)
- ◆性を基準に差別や優遇するのは筋違い。女性を優遇するのではなく、男性同様に望めば叶うというベースをつくる必要がある。ただ、全体の利益や効率を考えると、「男は働き、女は家を守る」の方が男女の特性がうまく働く。(20代 男性)
- ◆どこまで女性の社会進出を認めるかを、もう少し考えて行こう。(40代 男性)

- ◆男女共同参画社会づくりは大事なことなのか？男らしさ、女らしさの伝統を大切にすることも必要である。(60代 男性)
- ◆男女共同参画社会が実現するとは思えない。学校教育で協力すると良いが、親を見ていけば自然に育っていくだろう。(60代 女性)
- ◆男女共同参画社会の実現への目的、目標が見えないまま、岐阜県が取り組む意味が分からない。共同参画は個人や夫婦の考え方ではないか。(50代 男性)
- ◆男女で基本的な役割や能力に違いがあるのは仕方がない。女性が優遇されている社会は決して平等ではない。(30代 男性)
- ◆男女で身体的相違があるため、平等とはいかないと思う。男女の違いを考えて進めるべき。(50代 男性)
- ◆男女の特質や本人の性格、家庭状況等を考慮した地域、社会づくりをしていく必要がある。(60代 男性)
- ◆男女の特質を理解して認め、相互扶助を推進していくべき。(60代 女性)
- ◆男女平等社会を進めるのは良いことだが、子育てには女性(母親)の存在が大きい。社会進出するうえで、女性は子育てを疎かにしないでほしい。(20代 男性)
- ◆男女平等であっても、男女の質が違うことも考えてほしい。(50代 女性)
- ◆男女平等に向けての取り組みは素晴らしい。しかし性別や身体能力の違いは必ずあり、男女間の賃金格差を無くすのは職種によって不可能と思う。(30代 女性)
- ◆男女平等は誰でも知っているが、現状は何も変わらない。家事、子育て、介護など全部女性にかかってくる。結婚や出産で会社を一度辞めてしまうと次の仕事がない。(50代 女性)
- ◆男性が女性への偏見をなくしたとしても、絶対にどちらかが上でいたいと思う限り、平等は実現しない。(50代 男性)
- ◆都市ではまだ意識が高いが、風習が根強く残っている地域では何を言っても聞く耳を持たない。古い人たちがいる限り、無理な話だと思う。(50代 女性)
- ◆何事も本人たちの意識次第。お金をかけてフォーラムなどを行うのは税金の無駄遣い。(50代 女性)
- ◆必要以上の女性参画は反対。様々なことを乗り越えられる人が、最良な形で参画すれば良い。(40代 男性)
- ◆民間企業では女性はまだまだ下で、平等には程遠い。(40代 女性)
- ◆県庁の男女比はどうか。消防や警察も含め考えてほしい。役割分担が上手くいけばよいのではないか。(40代 男性)
- ◆向き不向きがあるので、必ずしも女性が社会に出るのが良いことばかりではない、という前提で進めるべき。(30代 女性)

(5) その他

- ◆男だから、女だからということではなく、身体的な面は違っても、平等に生きていける世の中であってほしい。(40代 女性)
- ◆現実的に男女平等は難しいと思うが、どの世代も希望の持てる住みやすい国であってほしい。(30代 女性)
- ◆県政にもっと力を入れて、安心して住みよい岐阜県にしてほしい。(60代 女性)
- ◆岐阜県へ転入してまもないが、古い慣習が残っていると感じた。(50代 女性)
- ◆国や県の無駄をなくすこと。(30代 男性)
- ◆こういう企画も良いが、今後社会を変える程の強い意志を持って活動してほしい。(50代 男性)
- ◆子どもが少なくなり、公立学校、保育園、幼稚園が空いている。その施設を生涯教育や高齢者サービスに使ってはどうか。(60代 女性)
- ◆大垣に住んでいるが、保育園がなかなか決まらない。未満児保育が増えると助かる。(20代 女性)

- ◆学校のPTAや子ども会の活動などが多いが、男性は会社を休めることが少ないので、女性への負担が大きい。今はほとんどの女性が仕事をしているので、専業主婦に負担がかかる。(50代 男性)
- ◆最近ではベビーカーを押すイクメンを結構見かけて微笑ましい。心優しい男性が増えれば、世の中様々な面が変わっていくと思う。(30代 女性)
- ◆市役所などで女性の課長に物事を頼んでも、すぐに回答をくれることが少ないので、上司は男性に限る。(60代 男性)
- ◆職場での上司によるセクハラやパワハラはよくあるが、相談できる窓口が少ない。(30代 女性)
- ◆女性の方が我慢強く、努力する人が多いと思う。日本の女性は強くなるので、心配はない。(60代 女性)
- ◆政治家や企業経営者には、仕事もしないのに高給を取り、権限を持っている高齢者の男性が多すぎる。体を使って働いている女性のパート賃金などは安すぎる。(60代 女性)
- ◆制度だけでなく根本的な解決が必要。(20代 男性)
- ◆千里の道も一歩から。岐阜県民でよかったと思えるよう、関係者に頑張ってほしい。(60代 女性)
- ◆社会全体をみれば、女性も活躍しているので、かなり男女共同参画社会になっていると思う。(60代 女性)
- ◆父親のための子育てセミナー、料理教室など楽しく参加できる講座があるといい。(40代 女性)
- ◆まずは家庭内の男女平等が叶ってほしい。家での幸せは外での活力になる。家庭でも職場でも働き者の女性は、ストレスを感じることはないか。(30代 女性)
- ◆セクハラ、パワハラ、DVはないか、まずは県職員でお手本を見せてほしい。(20代 男性)
- ◆性差別の現状がよく分からないので何とも言えない。(20代 男性)
- ◆男女共同参画について意見を求められても、内容を知らないので回答のしようがない。説明が必要と感じた。(60代 女性)